平成２１年度

年　　報

市立大町山岳博物館

目　　次

平成20年度の活動から…… 1

Ⅰ　資料収集・保存管理事業

1. 資料収集…… 2

(1) 新規収集資料

2. 資料保存管理…… 2

(1) 収蔵資料

(2) 所蔵図書

Ⅱ　調査研究事業

1. 調査研究…… 4

(1) 餓鬼岳周辺におけるライチョウの生息状況

(2) ミヤマモンキチョウの外部形態比較

(3) 安曇地方の湿地植物における生活史の研究

(4) データロガによる気象観測

(5) 鹿島槍ヶ岳荒沢奥壁、北壁登山史調査

(6) 山岳文化創出業務

2. 共同研究及び調査研究の協力…… 5

Ⅲ　教育普及事業

1. 展示…… 6

(1) 常設展示

(2) 企画展示

(3) 特別展示

(4) 移動展示

2. 教育活動…… 11

(1) おもしろ山博ミニゼミ

(2) 研究会

(3) 学習会・講座等の開催

(4) 学校との連携、融合

(5) 学芸員実習の受入

(6) 各種観察会・学習会の共催・協力

(7) テレビ、ラジオへの出演

(8) 収蔵資料などの貸出

3. 執筆・出版…… 19

(1) 執筆

(2) 出版

4. インターネット・ウェブサイト…… 22

(1) 公式ウェブサイト

(2) 安曇野アートラインウェブサイト

5. 広報…… 22

(1) 大町博物館連絡会発行博物館めぐり案内図

(2) ポスター

6. 友の会…… 22

(1) 組織

(2) 運営部

(3) 編集部

(4) 喫茶「こまくさ」の営業

(5) サークル活動

7. ライチョウ会議…… 24

(1) ライチョウ会議

(2) 第10回ライチョウ会議東京大会

8. ボランティア活動…… 24

Ⅳ　動植物飼育栽培繁殖事業

1. 動物飼育繁殖…… 26

(1) 飼育動物

(2) 傷病鳥獣保護

2. 植物栽培繁殖…… 25

(1) 栽培植物

3. 付属園整備…… 27

Ⅴ　その他

1. 各種委員などの委嘱…… 28

2. アルペン動物園との友好提携協定の締結…… 26

3. 信州大学山岳科学総合研究所との研究協力協定の締結…… 26

Ⅵ　運営

1. 組織および職員構成…… 29

2. 協議会…… 29

3. 入館者状況…… 31

4. 平成21年度予算・決算…… 33

Ⅶ　関係条例・規則等

1. 市立大町山岳博物館条例…… 34

2. 市立大町山岳博物館規則…… 36

3. 大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱…… 38

Ⅷ　施設

1. 敷地面積…… 39

2. 本館建物…… 39

3. 付属施設…… 39

4. 本館平面図…… 40

5. 付属園の建物図…… 41

Ⅸ　利用案内…… 41

平成 21 年度の活動から

館 長　宮野 典夫

前館長の柳澤昭夫さんが平成 22 年 3 月 23 日に逝去されました。ここに市長の弔辞の一部を引用させていただき、ご冥福をお祈り申し上げます。

「前略……

登山研修所 30 年の経験を生かし、平成 14 年には登山文化の拠点を自負する当市の山岳博物館長にご就任いただきました。思えばまさに天職を得た思いであったと拝察いたします。当市にとりましても千載一遇の機会に柳澤館長をお迎えすることができ、誠に心強い思いで一杯でありました。　　……略……

昨年 7 月、病をおして企画から調査、研究の陣頭指揮にあたられた企画展「アルピニズム誕生　昭和初期の鹿島槍ヶ岳登山史」は、山岳文化都市大町にふさわしい情報発信であったと、内外から高い評価をいただきました。この企画展が館長としての最期の遺業となってしまいました。まだ、やり残されたことも多く、いよいよ山岳博物館開館 60 周年に向けて、その先頭にたっていただこうとした矢先でもあり、誠に残念でなりません。

しかしながら、柳澤様が館長として培ってこられたご功績や教訓は必ずや後輩に引き継がれ、今後に活かされていくものと確信いたしております。　　……後略……」合掌

さて、平成 21 年度は山岳博物館にとって新しい取り組みが軌道に乗ってきた年でもある。それは博物館の学芸員が中心になって調査研究を地域住民の皆様と一緒に進めようとした試みで、「山岳文化研究グループ」は 22 名により勉強会、講座、現地観察会などすでに今年度末までに 23 回の開催を数えている。また「湿地植物研究会」は 5 名により居谷里湿原や親海湿原のミズバショウ、リュウキンカ、カキツバタ、サワオグルマなどの湿地植物の生活史に焦点をあて観察を続け、時には博物館で勉強会を行い、栽培施設の見学なども行ってきた。これらの調査や研究に参加されている方はそれぞれに興味をお持ちの方で、さらに研究を深めるためにボランティアで活動していただいている。

学芸員の本領を発揮した企画展は「羽は語る」「動物写生画展」「アルピニズム誕生　昭和初期の鹿島槍ヶ岳登山史」「キノコ展」「日本アルプス・富士山・白山・研究室発　高山の自然は今…　- そしてその未来は - 」の 5 本、作品等をお借りして展開する特別展は「刻 - 凛然の軌跡　髙橋貞夫展」「羽田栄治写真展　ネパール・ヒマラヤ今昔-山と人-」の 2 本を実施した。このほかに飼育員が撮影した動物の写真展を市役所や市内 6 小学校全校で展示した。

学習会等ではシンポジウム、探鳥会、スタンプラリー、写生会等を行い、ライチョウ、湿地植物、高山蝶の研究を進めてきた。

学芸員や飼育員は多岐にわたる業務をこなしてきた。これらの成果を小中学校の生徒児童のために、地域住民のためにできることを再考し、博物館が持ち合わせている知的財産を還元することを、さらに考えていかねばならない。

Ⅰ　資料収集・保存管理事業

1．資料収集

(1) 新規収集資料

平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日の間、寄贈によって次の資料を収蔵した。
内訳は、登山関係 20 件 302 点、岩石関係 1 件 136 点、絵画関係 1 件 18 点、昆虫 1 件 2 点。
詳細については以下の通りである。

№.	受入日	資　料　名	数量	寄贈者	住所
1	4 月 10 日	黒曜石	136 点	個人	長野県南佐久郡佐久穂
2	6 月 26 日	山岳絵葉書	10 点	個人	東京都練馬区
3	7 月 2 日	山岳映画テープ･DVD	4 点	団体	東京都江東区
4	8 月 22 日	山岳書籍	12 点	個人	東京都国分寺市
5	9 月 5 日	ピッケル	1 点	個人	東京都練馬区
6	9 月 20 日	ピッケル	1 点	個人	東京都世田谷区
7	9 月 25 日	雪形切り絵	18 点	個人	長野県大町市
8	10 月 9 日	山道具	3 点	個人	長野県大町市
9	10 月 13 日	山岳立体地図画像	1 点	団体	東京都港区
10	11 月 1 日	スキー用具	1 点	個人	埼玉県鴻巣市
11	11 月 3 日	山岳書籍	1 点	個人	長野県大町市
12	11 月 11 日	登山日記(原本)	1 点	個人	広島県呉市
13	11 月 25 日	山岳関係書籍	1 点	個人	長野県松本市
14	11 月 28 日	ピッケル(二村作)	2 点	個人	愛知県豊田市
15	11 月 28 日	ピッケル(二村作)	9 点	個人	神奈川県藤沢市
16	12 月 5 日	山岳関係者書簡類	240 点	個人	東京都杉並区
17	12 月 5 日	ピッケル	1 点	個人	埼玉県春日部市
18	12 月 10 日	山岳関係写真ほか	2 点	個人	埼玉県さいたま市
19	12 月 10 日	山岳書籍	2 点	個人	三重県鈴鹿市
20	12 月17 日	山岳写真	1 点	個人	東京都杉並区
21	12 月 25 日	ピッケル	1 点	個人	新潟県新潟市
22	1 月 27 日	昆虫標本	2 点	個人	長野県南佐久郡佐久穂
23	3 月 11 日	山岳関係書籍	8 点	個人	東京都北区

2．資料保存管理

(1) 収蔵資料

分類名および点数		自然科学系　　合計　11,556 点	
菌類(液浸標本)	129 点	哺乳類(剥製･骨格標本)	226 点
蘚苔類(乾燥標本)	674 点	鳥類(剥製標本)	625 点
維管束植物(液侵標本)	7 点	昆虫(標本ドイツ箱)	166 点
維管束植物(さく葉標本)	＊6,000 点	昆虫(未標本作製資料を含む)	＊1,002 点
魚類(液浸標本)	62 点	昆虫(液浸標本)	27 点

両生爬虫類(液浸標本等)	72 点	その他液浸標本(調査研究資料)	103 点
貝・甲殻類(液浸標本)	13 点	岩石・化石	＊2,456 点

分類名および点数		人文科学系　　合計 5,729 点	
山岳	3,880 点	寄託(山岳、美術)	507 点
美術	191 点	(寄託内訳)	
民俗	928 点	個人寄託 250 点	
歴史	49 点	個人寄託(ﾋﾟｯｹﾙ関係) 95 点	
考古	158 点	団体寄託 164 点	

①収蔵資料の点数

総計 17,285 点（平成 22 年 3 月 31 日現在）

※ これらの資料点数については概数である。

②現状と課題

積極的な資料の収集計画、予算処置が明確にされておらず、現状として先方からの寄贈・寄託申し出に依存している。

a. 自然科学系

動物（剥製）資料については資料カード（紙ベース）および最低限の検索・照会作業のＰＣ検索ができるように整理されているが、昆虫（ガ類の展翅標本については採集者による同定まで)・地質資料等については未整理である。

b. 人文科学系

資料収集については、一次資料に関して未登録資料の新規追加登録作業を順次進めている。また、二次資料の整理も同様である。登録済み資料に関しても、資料情報の追記ほか、記録写真が未撮影のものや作図が未添付のものはそれらの作業を段階的に進めたい。当面の目標として、受付台帳をもとにした収蔵資料目録の作成・刊行を目指す。

なお、山岳資料の収集については、これまで寄贈、寄託という型が主体であったが、本年度実施した企画展「アルピニズム誕生 昭和初期の鹿島槍ヶ岳登山史」あるいは山岳文化創出事業、大町山岳文化研究会等の各種事業を通じて知り得た個人・団体所蔵の山岳資料について、積極的に寄贈をお願いし、資料の充実に務めているところである。

ｃ．管理保存

資料保存管理については、防虫剤をパラジクロロベンゼンからエンペントリンに代替中である。ただし、開放空間では空間体積に対して有効量に達しないために殺虫効果が低く、殺卵効果はないため、定期的なシフェノトリンによる簡易ガス燻蒸を展示室 8 回、収蔵スペース 6 回の実施をした。現在、資料の保存環境は好ましくない。ＩＰＭ(Integrated Pest Management)＝総合的有害生物管理に移行させるため、館内への有害昆虫類・塵などの侵入対策として、一部館入口扉の改良工事を今年度計画していたが、建物の耐震診断の結果をみてからの施行なり延期となった。展示ケースや収蔵スペースの床壁面を含め、気密性を持たせた保存環境空間の確保、あるいは全館規模での防塵・防虫対策など、施設面の抜本的な改善が急務である。

(2) 所蔵図書

①所蔵図書の点数

4,528 冊（平成 22 年 3 月 31 日現在）

Ⅱ　調査研究事業

1．調査研究

(1) 餓鬼岳周辺におけるライチョウの生息状況（担当：宮野）

平成 21 年 6 月の調査では餓鬼岳小屋南側で抱卵中のメス 1 羽の個体を確認したが、オスは確認できなかった。

6 月 27 日～30 日の 4 日間、上記の補完的調査と燕岳周辺のナワバリの北限を調査した。唐沢岳、餓鬼岳、東沢岳では冬期糞の発見はあったが、姿の確認はとれず、繁殖期中の生活痕も発見できなかった。また、燕岳周辺の個体群の北限は北燕岳～燕岳間の燕岳寄りであった。

(2) ミヤマモンキチョウの外部形態比較（担当：清水博文）

外部形態比較を行うための資料として、(財) 進化生物学研究所などで所蔵されている 109 個体の標本写真の撮影を行った。

(3) 安曇地方の湿地植物における生活史の研究（担当：千葉）

今年度は 4 名で観察を行った。対象植物のミズバショウ、リュウキンカ、サワオグルマ、カキツバタ、コオニユリ、クサレダマ、ミソハギ、サワギキョウ、アカバナ、ミズオトギリの果実形態、種子散布型、種子数、種子形態の特徴の観察、発芽から開花個体に至るまでの形態変化の観察、開花時間、開花様式の観察および訪花昆虫の行動の観察を行った。

(4) データロガによる気象観察（担当：宮野）

本格運用の準備として 12 月 2 日より鷹狩山に設置した。

(5) 鹿島槍ヶ岳荒沢奥壁、北壁登山史調査（担当：柳澤・清水隆寿）

博物館登山史部門の資料の収集・充実のため、現地調査を昨年に引き続き実施している。昭和初期に行われた鹿島槍ヶ岳荒沢奥壁、北壁の初登攀について検証するため、大町山の会の協力をえて、3 月 21～23 日、八方尾根経由カクネ里遠望、白沢天狗尾根経由爺ヶ岳などの現地調査を実施しており、積雪雪崩の状況、地形、登攀ルート等について調査した。

しかし、日程が限られる上、天候に左右されたので、十分とは言えず、今後とも入山調査が必要あり、他の山域へと調査を継続して進めていきたい。

(6) 山岳文化創出業務（担当：清水隆寿）

山岳文化創出事業遂行の為、大町山岳博物館友の会に当事業を委託し、専任職員の選考試験を実施した結果、池田町在住の宮澤陽美氏が選任された。

宮澤氏は初年度の 21 年 3 月まで、鹿島槍ヶ岳を中心とした資料の収集・未調査資料の掘り起こし作業を実施し、『北アルプス登山史資料 1 鹿島槍ヶ岳登山史』作製の為の編集作業、データ入力作業、写真撮影、著作権承諾事務、校正作業を担当した。

来年度以降は、登山史資料の未調査資料の掘り起こしを行って、順次資料集の刊行を行う。

また昭和初期に行われた鹿島槍ヶ岳荒沢奥壁、北壁の初登攀について検証するため、大町山の会の協力をえて、3 月 20 日から 21 日に白沢天狗尾根から爺ヶ岳周辺の積雪期の写真撮影、3 月 22 日に八方尾根から唐松岳周辺の積雪期の写真撮影等を実施し、山岳環境及び登山史ルートの現地検証調査を行った。

2．共同研究及び調査研究の協力

(1) 食肉目の分子遺伝学及び寄生虫の研究（担当：宮野・清水博文）

神奈川大学との共同により、食肉目イヌ科、イタチ科、ジャコウネコ科の分子遺伝学的、形態学的、食性、内部寄生虫の解析を行うため、交通事故等で死亡した個体を収集した。ホンドタヌキ 37 個体（平成 20 年度 17 個体)、ホンドギツネ 6 個体（同 8 個体)、ハクビシン 16 個体（同 9 個体)、テン 1 個体（同 1 個体)、ニッポンアナグマ 2 個体（同 1 個体）であった。なお、解析は現在進行中である。

(2) ハクビシンの食餌方法・行動調査（担当：清水博文）

長野県農業試験場との共同により、年々増加するハクビシンと思われる農作物への被害対策を進めるにあたり加害獣を特定するための基礎資料として、10 月 14 日、20 日、21 日、11 月 4 日に飼育個体を用い、農作物の採食方法・食痕の観察を行った。調査結果は、県下の野生鳥獣害現地対策チームへの情報提供や、市町村、農家などへの指導、被害対策技術の開発に利用される。

(3) イヌワシの剥製によるＤＮＡ調査（担当：宮野）

多摩動物公園の野生生物保全センターとの共同により、当館で保管しているニホンイヌワシの剥製からミトコンドリアＤＮＡを用いた遺伝的解析を行った。これは日本動物園水族館協会の種別対象種となっているニホンイヌワシの全国で飼育されている個体調査でハプロタイプａとｂは日本産、タイプｃが韓国由来、タイプｄが不明となっていることから、今後の繁殖計画を進める上でタイプｄの由来を判明させる目的で行った。日本産と確定できる本館の剥製の羽を提供し、6 個体中 5 個体の解析ができた。結果はタイプａが 3 個体、タイプｂが 1 個体であった。タイプｄの判定についてはまだ結論が出ていない。

(4) 白山におけるライチョウ確認調査（担当：宮野）

石川県白山センターの依頼により、今年 5 月に白山で発見され、その後姿が確認できていないメスのライチョウの調査を信州大学教育学部の中村浩志教授と共に 10 月 9 日～12 日に行った。10 月 10 日に大汝峰にて姿を発見し、行動追跡と餌のついばみ調査を行い、11 日は姿の発見ができなかったので痕跡調査をし、糞や羽の確認ができた。

Ⅲ　教育普及事業

1．展示

(1) 常設展示

①新規展示

a．新着資料展（担当：清水博文）

・時　期：平成 21 年 9 月 18 日(金)～平成 22 年 3 月 31 日(水)

・場　所：2 階展示室

・概　要：平成 21 年度に製作したチュウサギ、コムクドリ、キレンジャクなどの剥製計 6 点を展示。

・所　見：すぐに常設展示に反映されない新規作成剥製などの資料を、入館者に見ていただける数少ない機会として、今後も継続的に実施していきたい。

b．新着資料展（担当：清水隆寿）

・時　期：平成 21 年 10 月 20 日(火)～平成 22 年 3 月 31 日(水)

・場　所：2 階レクチャースペース壁面

・概　要：山岳立体地図画像（1 点・150 ㎝×313 ㎝）　東京都港区デジタル・アース・テクノロジー（株）製作。

c．新着資料展（担当：清水隆寿）

・時　期：平成 21 年 9 月 2 日(水)～平成 22 年 3 月 31 日(水)

・場　所：2 階レクチャースペース

・概　要：平成 21 年度企画展に製作した北アルプス山岳模型（1 点・183 ㎝×164 ㎝）を継続展示。大町民話の里づくり「もんぺの会」の作製。

d．ふぞくえんアニマルウォッチング（担当：飯島・上良・小嶋・戸谷）

・時　期：平成 21 年 5 月 26 日(火)～平成 21 年 12 月 21 日(月)

・場　所：2 階展示室

・概　要：平成 21 年の干支が丑年であったため、ウシ科の動物であるニホンカモシカに焦点を当て、ニホンカモシカの体の特徴やウシとシカの違い、また飼育している個体の紹介などを展示した。

e．ニホンカモシカ　オタリ親子の観察日記（担当:飯島・上良・小嶋・戸谷）

・時　期：平成 21 年 4 月 1 日(水)～平成 22 年 3 月 31 日(水)

・場　所：2 階レクチャースペースの隣 3 階への階段下及び 3 階展望室

・概　要：平成 20 年 7 月に付属園にて自然繁殖したニホンカモシカの成長を観察日記として公開した。

②展示テーマおよび展示資料点数　総計 1,437 点（平成 22 年 3 月 31 日現在）

内訳（自然科学系　合計 623 点、人文科学系　合計 814 点）

展示テーマ	資料点数	展示テーマ	資料点数
3F 展望室		1F　ホール・特別展示室	
「北アルプスの展望」コーナー	計 4 点	「山と芸術」コーナー	計 61 点
2F　第 2 展示室　※1		絵画　※2	21 点
「山岳の自然」コーナー	計 623 点	その他	19 点
北アルプスのかたち	24 点	ピッケル	21 点

2F　第 2 展示室　※1　続き		1F　第 1 展示室	
北アルプスの生いたち	80 点	「山と登山」コーナー	計 749 点
里山から高山までの生物	235 点	北アルプスの登山史	322 点
ライチョウ	7 点	北アルプスの山小屋	46 点
さわれる剥製	5 点	登山の道具	152 点
渓谷の生物	35 点	遭難	57 点
湖の生物	60 点	エベレスト周辺の地形模型	39 点
湿原の生物	55 点	日本人の海外登山	108 点
剥製ライブラリー	102 点	山のコラム	25 点
パレットライブラリー	20 点		

※1 一次資料のほか、一部写真パネルなど含む。

※2 絵画作品については、特別・企画展開催の際は展示替えのため公開していない。

(2) 企画展示

①羽は語る（担当：清水博文）

a. **会　期**：平成 21 年 4 月 29 日(水)～5 月 31(日)　開催日数：29 日

b. **会　場**：特別展示室・ホール

c. **協　力**：信州野鳥の会

d. **後　援**：財団法人 日本野鳥の会、財団法人 日本鳥類保護連盟

e. **概　要**：５月の愛鳥週間に併せた会期で開催した。長野県の野山や水辺で目にする機会の多い野鳥の羽毛に焦点をあてて、一枚の羽毛から知ることのできる事象について、釣り針やテグス被害・雛の誤認保護についても紹介。

f. **展示資料**：羽毛標本 88 点、剥製標本 45 点、生態写真 60 点、実験コーナー3 点の計 196 点とパネル解説 19 点。

g. **観覧者**：2,477 人（有料 2,173 人、無料 304 人）

h. **所　見**：たった一枚の羽毛に様々な情報が隠されていることを知り、身近な生き物である野鳥をはじめ、広く自然環境について興味を持っていただく契機となったことと思う。

②動物写生画展（担当：清水隆寿）

a. **会　期**：平成 21 年 6 月 13 日(土)～28 日(日)　開催日数：13 日

b. **会　場**：講堂（入場無料）

c. **概　要**：春の動物写生大会に参加した園児、児童・生徒が描いた博物館付属園内の動物や風景の絵画を展示。

d. **主な展示資料**：園児、児童・生徒による絵画全作品、96 点

e. **関連イベント**：

・春の動物写生大会（場所：付属園）　4 月 25 日(土)～5 月 6 日(水)　開催日数：12 日
※開催期間中は「アニマルウォッチング～動物をもっと近くで見てみよう！～」を講堂で開催し、写真や解説文で動物の特徴を紹介し、同期間中の午前と午後に「動物観察ツアー」として付属園の動物について実際に動物を見ながら解説した。「付属園スタンプラリー」も同時開催している。

・写生画審査会（場所：講堂）　5 月 21 日(木)市内小中学校の先生を審査員として 32 点を選出し、中央審査へ出品。博物館職員の審査による特別賞を 9 点選出。
（主催：日本動物園水族館協会中部ブロック、場所：名古屋市東山総合公園）

・写生画表彰式（場所：講堂）6 月 28 日(日)
・動物写生画展　6 月 13 日(土)～28 日(日)　博物館講堂　入場無料

f．所　見：地域の子供向けの企画展。絵画作品のほかに、付属園で飼育中の動物や付属園の役割などについて写真・説明パネルによって紹介した。これにより、付属園でのカモシカの保護・繁殖事業や野生動物の救護活動について市民などに広く知る機会となった。

③アルピニズム誕生　昭和初期の鹿島槍ヶ岳登山史（担当：柳澤昭夫・清水隆寿）

a．会　期：平成 21 年 7 月 4 日(土)～8 月 30 日(日)　開催日数：58 日

b．会　場：特別展示室・ホール

c．概　要：日本の登山史上重要な画期となった大正末期から昭和初期にかけて、鹿島槍ヶ岳を中心とする北アルプスでは当時どのような登山思想をもって、どのような人たちにより、どのような登攀が試みられたのか。また、ここで培われた登攀技術はその後の日本の登山史にどのような影響を与えることになったのかを大学山岳部等の部報などを検証し、その歴史の解明を目的として実施致しました。併せて後世に役立てられるように資料の収集と整理に務めた。

d．展示資料：調査結果などはパネルや調査資料を用い展示紹介。当時の登攀用具やカメラ資料、当時の部報や書籍、記録類、また当時の登攀ルートを示した模型の展示を行った。

e．入館者：5,936 人（有料 5,486 人、無料 450 人）

f．所　見：実際に当時に使用されたものを展示することによって、来館者の方々により身近に、分かり易い展示を心がけた。北アルプスでの困難な冬期登攀における記録を紹介した今回の企画展では、この北アルプスの地が登山者にとってどのような役割を担い、技術を磨く場となり、歴史の礎となったかがご理解いただけたものと思う。

g.関連イベント：

講演会：企画展に併せて 7 月 19 日(日)に講演会を実施している。講師は館長の柳澤昭夫により、演題は「鹿島槍・荒沢奥壁の冬期初登攀」。参加者は 43 人。

見学会：7 月 25 日（土)、鹿島槍ヶ岳現地見学会①として、「小遠見からカクネ里を望むトレッキング」を実施。参加者 14 人。
8 月 22 日(土)、鹿島槍ヶ岳現地見学会②として、「本谷、西股、中岩沢トレッキング」を実施。参加者 12 人。

企画展展示解説：7 月 4 日(土)、5 日(日)、12 日(日)、18 日(土)、20 日(月)、26 日(日)、8 月 2 日(日)、9 日(日)、16 日(日)、23 日(日)、30 日(日)のそれぞれ午前と午後に柳澤昭夫と清水隆寿が交代で実施。

h．出版物

平成 21 年企画展『アルピニズム誕生 昭和初期の鹿島槍ヶ岳登山史』(平成 21 年 7 月 4 日発行)また山岳文化創出事業とも連携をもたせ『北アルプス登山史資料 1　鹿島槍ヶ岳登山史』(平成 22 年 3 月 31 日発行)も併せて刊行した。

⑤キノコ展（担当：千葉）

a．会　期：平成 21 年 9 月 26 日(土)～27 日(日)　開催日数：2 日

b．会　場：講堂（入場無料）

c．概　要：パネルを用いてキノコの正体の紹介および今年採れた生のキノコの展示。

d．関連イベント：キノコ学習会

e．展示協力者：飯島八郎・清沢由之・高野哲哉・山岳博物館友の会（敬称略）

f．所　見：今年は 138 種のキノコを展示することができた。

⑥日本アルプス・富士山・白山・研究室発　高山の自然は今…　- そしてその未来は -

（担当：千葉）

a．会　期：平成 21 年 10 月 10 日(土)～12 月 20 日(日)　開催日数：62 日

b．会　場：特別展示室・ホール

c．後　援：信濃毎日新聞社、朝日新聞松本支局、中日新聞、読売新聞松本支局、毎日新聞松本支局、産経新聞社長野支局、大糸タイムス株式会社、民友信州、市民タイムス、ＦＭ長野、ＳＢＣ信越放送、ＮＢＳ長野放送、株式会社テレビ信州、長野朝日放送株式会社、アルプスケーブルビジョン株式会社、大町市有線放送電話農業協同組合

d．概　要：北・南・中央アルプス、富士山、白山で生じている事柄について、研究者らによる最新の情報を写真やグラフ、動画を用いて紹介した。

e．展示協力者：飯田肇・泉山茂之・尾関雅章・増沢武弘・福士秀人・野上達也・山口剛士

f．入館者：2,972 人（有料 2,731 人、無料 241 人）

g．所　見：山岳文化都市宣言 7 周年を記念して、日本の高山で何が生じているのか、最新の研究成果を北アルプス、南アルプス、中央アルプス、富士山、白山から報告していただいた。また、シンポジウムを開催し、現状について広く知っていただこうと企画した。これは山を扱う博物館として、取り扱うべき内容であると館内でも内容を繰り返し検討したが、入館者の増加へつなげることはできなかった。逆に入館者数を観光客に依存する博物館であることから入館者の減少を及ぼした可能性がある。入館者の増加を評価とするのであれば、このような展示は開催しないほうが良いだろうが、「山岳文化都市宣言」のまち大町市にある博物館であれば、この企画展・シンポジウムは開催すべき内容であったと思われる。

h．関連イベント：シンポジウム

司　会：鈴木啓助

演　者：飯田肇・泉山茂之・尾関雅章・増沢武弘・福士秀人・野上達也

場　所：サンアルプス大町

参加者：80 名

(3) 特別展示

①刻 - 凛然の軌跡　髙橋貞夫展（担当：宮野）

a．会　期：平成 21 年 9 月 10 日(木)～10 月 4 日(日)　開催日数：22 日

b．会　場：特別展示室・ホール

c．後　援：信濃毎日新聞社、朝日新聞松本支局、中日新聞、読売新聞松本支局、毎日新聞松本支局、産経新聞社長野支局、大糸タイムス株式会社、民友信州、市民タイムス、ＦＭ長野、ＳＢＣ信越放送、ＮＢＳ長野放送、株式会社テレビ信州、長野朝日放送株式会社、アルプスケーブルビジョン株式会社、大町市有線放送電話農業協同組合

d．概　要：「木」と「山」をキーワードに、「木」では作品の素材が木であり彫り・刻むことで新たな命が生まれることを主眼に、また「山」では新作を展示した。

e．展示内容：1999 年日展出品作「月光樹」から 2004 年日本現代工芸美術展出品作「点の軌跡」までの代表作 16 点、善光寺大本願明照殿寄進原型「妙舞」他 2 点、山をモチーフとした 2009 年作の作品 10 点の計 29 点を展示。

f．入館者：　2,379 人（有料 2,104 人、無料 275 人）

g．所　見：地域で活躍されている方の作品を展示することは山岳博物館からの情報発信としてふさわしく意義深いものがあると感じた。また、この展示をご覧いただいた方の中には大町市内在住でありながら作者の紹介で初めて博物館に来た方もいて、山をテーマにした登山

関係や生物の部門以外での教育普及活動として、市民のニーズを吸収し展開することの重要性を感じた。。

h．関連イベント：「木彫りに挑戦　彫る・創る」

9 月 13 日（日）に作者の指導により彫彩の技法を用いて小作品を作製した。９名の参加。

②羽田栄治写真展　ネパール・ヒマラヤ今昔-山と人-（担当：清水博文・清水隆寿）

a．**会　期**：平成 22 年 3 月 6 日(土)～4 月 18 日(日)　開催日数：38 日

b．**会　場**：特別展示室・ホール

c．**後　援：株式会社中日映画社・コダック株式会社・コダックフォトサロン・日本山岳写真協会**

d．**概　要**：作者がネパールを初めて訪れた 1960 年から現在までの「山と人」をテーマに撮影した写真作品を展示。

e．**展示資料**：写真 64 点

f．**入館者**：1,199 人（有料 1,081 人、無料 118 人）

g．**所　見**：記録写真の重要性について再認識し、登山者や山麓で生活する人々の移り変わりを通して、ネパール・ヒマヤラをとりまく様々な環境変化について考えていただけたと思う。

h．**関連イベント**：

羽田栄治ギャラリートーク（場所：展示会場）3 月 20 日(土)13：00～14：30

作者による作品解説、撮影時のエピソードなど伺った後、作者が持参されたドキュメンタリー映画「未踏の氷壁」なども紹介された。参加人数 60 名。

（4）移動展示

①さんぱく☆ぎゃらりー

博物館の日々の活動内容や調査研究、付属園の動物たちを市民や市役所職員に理解してもらい、来館・来園を促すため、市役所市民ホールを活用して展示を行った。

a.**「アニマルウォッチング」**（担当：飯島・上良・小嶋）

・会期：平成 20 年 6 月 29 日(月)～7 月 17 日（金）（19 日間）

・概要：飼育員だからこそ撮影できる動物たちの写真および撮影秘話１８点を展示した。また特別企画として、観覧者が自らめくって楽しむことが出来るクイズ形式のボード「これはだれのゴハンでしょう？」４点を展示。

b.**「アニマルウォッチング」**（担当：飯島・小嶋・戸谷）

・会期：平成 21 年 10 月 15 日(木)～11 月 6 日（金）（23 日間）

・概要：飼育員だからこそ撮影できる動物たちの写真および撮影秘話１８点を展示した。また特別企画として平成 19 年から行っている「ふぞくえんスタンプラリー」の歴史として、イベントの説明や過去のスタンプデザインなどを展示した。

c.**「アニマルウォッチング」**（担当：飯島・小嶋・戸谷）

・会期：平成 21 年 3 月 4 日(水)～3 月 26 日（木）（23 日間）

・概要：飼育員だからこそ撮影できる動物たちの写真および撮影秘話１８点を展示した。また特別企画として付属園で飼育されている唯一の外国産動物であるシベリアオオヤマネコの特集を組んで展示した。

②ふぞくえんがやってきた！！

博物館で飼育している動物たちの写真を通して、子供たちに大町市に生息する野生動物を身近に感じてもらい、野生動物に対する新たな疑問や知識の向上の一助となることを願うと共に、来館・来園を促すため、市内６小学校及び市立図書館において動物の写真の展示を行った。

a．大町東小学校
・会期：平成 21 年 6 月 22 日(月)～7 月 10 日(金)
・概要：昇降口にＡ４サイズの写真を４枚、渡り廊下へＡ５サイズの写真を１５枚展示した。
ｂ．大町西小学校
・会期：平成 21 年 6 月 23 日(火)～7 月 10 日(金)
・概要：廊下にクイズ形式のめくりボードを１０枚展示した。
ｃ．美麻小中学校
・会期：平成 21 年 7 月 2 日(木)～7 月 23 日(木)
・概要：廊下掲示板にＡ５サイズの写真とクイズ形式のめくりボードを合わせて１５枚展示した。
ｄ．八坂小学校
・会期：平成 21 年 7 月 6 日(月)～7 月 17 日(金)
・概要：昇降口にＡ５サイズの写真とクイズ形式のめくりボードを合わせて１５枚展示した。
ｅ．大町南小学校
・会期：平成 21 年 7 月 13 日(月)～7 月 24 日(金)
・概要：廊下にＡ５サイズの写真を１５枚展示した。
ｆ．大町北小学校
・会期：平成 21 年 7 月 13 日(月)～7 月 24 日(金)
・概要：廊下にクイズ形式のめくりボードを１０枚展示した。
ｇ．市立大町図書館
・会期：平成 21 年 7 月 29 日(水)～8 月 16 日(日)
・概要：エントランスホール及びくつろぎコーナーにＡ５サイズの写真とクイズ形式のめくりボードを合わせて１８枚展示した。

③「安曇野アートライン美術館展」（担当：宮野）
a．会　期：平成 21 年 11 月 21 日(土)～12 月 25 日(金)
b．会　場：国営アルプスあづみの公園 テーマ展示館 多目的ホール（安曇野市）
c．概　要：安曇野アートライン推進協議会に加盟する美術館・博物館所蔵の作品や、各館の紹介パネルなどを展示。公園の来館者に安曇野のアートにふれていただいた。大町市からは尾竹正躬作の「岩魚」「いが栗」「山うど」「立山の秋」「スキー場」の 5 点を出品。

④「雪がた写真・切り絵展」（担当：清水隆寿）
第８回北アルプス雪形まつりに併せて、山岳博物館では実行委員会に加わり、雪形ウォッチング部門の展示及び企画を担当した。
ａ．会　期　平成 21 年 5 月 9 日(土)～5 月 24 日(日)　開催期間：16 日間
ｂ．会　場　キャラリーい～ずら(二階展示場)
ｃ．概　要　キャラリーい～ずらの展示場では、雪形写真パネルの展示。雪形写真応募作品展示。川又啓一氏による雪形切り絵作品展。雪形ビデオ上映。
また期間中、雪形フェスティバルと称して 5 月 10 日(日)には、相澤亮平氏による「金田国武と民話の世界」の講演会等、5 月 16 日(土)には、雪形民話の語り、川又啓一氏による切り絵教室を行った。また期間中の各土日曜日には、北アルプス各地の雪形現地見学会を実施した。

2．教育活動

(1) おもしろ山博ミニゼミ

小・中学校の完全週 5 日制に対応したイベントとして、平成 14 年から毎週末に開催したが、小中学生の参加が少なかったので、観覧者とのふれあいを兼ねた形式で館内での講座を行なってきた。基本的に 1 日 2 回（同じ内容)、1 回 10～20 分程度の所要時間。内容は展示に付随する解説、研究の成果、タイムリーな話題など幅広い分野について毎日曜日に開催した。

参加者は市外・県外からの来館者がほとんどであり、そうした方々に北アルプス山麓の自然や登山に関する話題や展示資料の詳しい紹介を行なうことで、館内の見学に付加価値を得て帰っていただくケースが多かった。また、定期的に参加いただける方や、公表したテーマに興味を持って参加していただける方もいた。

開催日			題名(担当)＊館外活動の場所(空白は館内)	参加者数		
月	日	曜		大人	子供	計
4	19	日	岩淵陽人さんの漆絵画(宮野)	2	0	2
	25	土	動物観察ツアー①(清水博文)	20	0	20
	26	日	冬の後立山の初縦走(柳澤)	5	0	5
			動物観察ツアー②(宮野)	7	10	17
	27	月	動物観察ツアー③(飯島)	0	0	0
	28	火	動物観察ツアー④(上良)	0	0	0
	29	水	動物観察ツアー⑤(清水博文)	20	0	20
	30	木	動物観察ツアー⑥(飯島)	5	0	5
5	1	金	動物観察ツアー⑦(上良)	0	0	0
	2	土	動物観察ツアー⑧(飯島)	10	0	10
	3	日	動物観察ツアー⑨(宮野)	8	5	13
	4	月	動物観察ツアー⑩(清水博文)	24	0	24
	5	火	動物観察ツアー⑪(清水博文)	27	0	27
	6	水	動物観察ツアー⑫(上良)	17	0	17
	17	日	鳥の羽を観察してみよう(清水博文)	32	1	33
	24	日	湿地植物　サワオグルマの花のひみつ	32	1	33
	31	日	明治初期の針ノ木新道の歴史	15	0	15
6	7	日	梅雨どきのライチョウ(宮野)	11	0	11
	14	日	早稲田大学の鹿島槍北壁の登攀(柳澤)	9	0	9
	21	日	日本最小のトンボ「ハッチョウトンボ」(清水博文)	13	0	13
	28	日	明治時代の測量登山(清水隆寿)	18	1	19
7	4	土	企画展「アルピニズム誕生」解説①(柳澤)	12	0	12
	5	日	企画展「アルピニズム誕生」解説②(柳澤)	30	0	30
	12	日	企画展「アルピニズム誕生」解説③(清水隆寿)	52	0	52
	18	土	企画展「アルピニズム誕生」解説④(清水隆寿)	40	0	40
	19	日	企画展「アルピニズム誕生」解説⑤(清水隆寿)	70	0	70
	20	月	企画展「アルピニズム誕生」解説⑥(清水隆寿)	10	0	10
	26	日	企画展「アルピニズム誕生」解説⑦(清水隆寿)	10	0	10
8	2	日	企画展「アルピニズム誕生」解説⑧(柳澤)	23	0	23
	9	日	企画展「アルピニズム誕生」解説⑨(柳澤)	30	0	30
	16	日	企画展「アルピニズム誕生」解説⑩(柳澤)	14	0	14

開催日			題名（担当）＊館外活動の場所（空白は館内）	参加者数		
月	日	曜		大人	子供	計
	23	日	企画展「アルピニズム誕生」解説⑪（清水隆寿）	10	0	10
	30	日	企画展「アルピニズム誕生」解説⑫（清水隆寿）	0	0	0
9	6	日	餓鬼岳のライチョウ（宮野）	5	0	5
	13	日	アリとコオロギ（清水博文）	13	3	16
	20	日	ライチョウとナナカマド（宮野）	15	3	18
10	4	日	リスとネズミのかじり跡（清水博文）	11	0	11
	11	日	企画展「高山の自然は今」解説①（千葉）	13	0	13
	18	日	企画展「高山の自然は今」解説②（宮野）	9	0	9
11	1	日	企画展「高山の自然は今」解説③（宮野）	23	0	23
	8	日	企画展「高山の自然は今」解説④（千葉）	0		0
	15	日	企画展「高山の自然は今」解説⑤（千葉）	0		0
	22	日	企画展「高山の自然は今」解説⑥（清水博文）	0	0	0
	29	日	企画展「高山の自然は今」解説⑦（清水博文）	0	0	0
12	5	日	企画展「高山の自然は今」解説⑧（清水博文）	0	0	0
	13	日	企画展「高山の自然は今」解説⑨（宮野）	0	0	0
	20	日	企画展「高山の自然は今」解説⑩（千葉）	0	0	0
参加者数合計				665	24	689

①小鳥の声を聞く会（担当：清水博文）

a．**開催日**：平成 21 年 5 月 10 日（日）

b．**場　所**：山岳博物館から鷹狩山山頂

c．**講　師**：腰原正己・鳥羽悦男・長澤修介

d．**協　力**：山岳博物館友の会

e．**参加者数**：大人 35 人　子供 6 人　計 41 人

f．**概　要**：野鳥を中心とした自然観察会を山岳博物館友の会の協力を得て実施した。観察した鳥類は合計 37 種。サンショウクイ・クロツグミ・オオルリ・キビタキなどのほか、過去の記録が少ないビンズイ・オオタカ・カルガモや、今回新たにハチクマを観察した。例年、サンショウクイが営巣していることが多いが、今回は観察できなかった。この観察会は、今回で 29 回（観察記録が残されているもの）を数え鷹狩山での野鳥の生息動態に関する調査記録を蓄積した。このような調査を継続することにより重要な資料が得られる。

②キノコ学習会（担当：千葉）

a．**開催日**：平成 20 年 9 月 27 日（日）

b．**場　所**：山岳博物館から鷹狩山周辺

c．**講　師**：飯島八郎・高野哲哉・（敬称略）

d．**参加者数**：大人 27 人　子供 1 人　計 28 人

e．**概　要**：参加者を 3 班に編成し、観察を行った。キノコ等を通して自然の仕組みと付き合い方を考えることを目的として実施した。なお、学習会への参加者の大半は前年同様「広報おおまち」から情報を得ていることがわかった。

③親子探鳥会（冬鳥の観察会）（担当：清水博文）

a．**開催日**：平成 21 年 12 月 13 日（日）

b．**場　所**：木崎湖周辺

c．講　師：腰原正己・鳥羽悦男・長澤修介（敬称略）
d．参加者数：大人 9 人　子供 2 人　計 11 人
e．概　要：観察コースは昨年と同じく、木崎湖南端より湖の東側遊歩道を通り、稲尾沢までを往復するもので、曇天で北風があり寒い中での観察会であった。記録した鳥類はオオバン・キンクロハジロ・マガモ・ヨシガモなど例年記録のある種のほか、新たにホオジロ･オナガが確認され 30 種であった。今年は新型インフルエンザの流行が影響したのか、例年と比較して小学生の参加が著しく少なかった。

(2) 研究会

①大町山岳文化研究会

同研究会は、山岳博物館友の会を主体にして広く一般市民の方々にも参加を募り、「山岳」にテーマに置き、北アルプスの登山史や地形・地質、雪形や現在の登山が抱える課題、自然保護など広範な人文・自然科学といった学問を横断して、会員みずからが地域を考え、互いに学習を深め生涯学習を推進していく場として、平成 20 年 7 月より活動を開始した。

概ね月 1 回、月半ば頃の水曜日、午後 6 時～8 時を目安に実施。平成 22 年 3 月現在、会員 22 名で活動している。以下は、本年度の活動内容の要旨である。

	実施日	内　　容	参加者
第 10 回	4 月 15 日	柳澤館長より剱岳登攀史などスライドを用い学ぶ	11
第 11 回	5 月 13 日	映画「交響詩立山」鑑賞会など	13
第 12 回	6 月 15 日	美麻権現山への三角点見学会。(現地見学会)	13
第 13 回	6 月 29 日	爺ヶ岳三角点見学会。(現地見学会)	8
第 14 回	7 月 15 日	三角点見学報告、測量登山に関する学習	9
第 15 回	8 月 12 日	「道」をテーマにした学習、 岳への道、街道の道	4
第 16 回	9 月 9 日	岳への道と変遷。里の古道の学習	5
第 17 回	10 月 14 日	岳への道と変遷。里の古道の学習	5
第 18 回	11 月 18 日	北アルプスの山小屋の歴史－大天荘ほか－	7
第 19 回	12 月 17 日	北アルプスの山小屋の歴史－槍ヶ岳山荘ほか－	9
	12 月 19 日	南アルプス芦安山岳館（現地見学会）	7
第 20 回	1 月 13 日	北アルプスの山小屋の歴史－大正期の石室について－	10
第 21 回	2 月 17 日	北アルプス山小屋調査について、打ち合わせ	8
第 22 回	3 月 17 日	北アルプス山小屋調査について、「山岳と絵画」について	10

②大北地域の湿地植物の生活史研究グループ研究会

同研究会は、山岳博物館友の会会員との協働による研究で、大北地域の湿地に生育する植物 10 種を対象に生活史や開花特性、結実特性、生物間関係などを解明し、平成 23 年度秋にその成果を発表することを目的に発足した。メンバー5 名で活動している。

	実施日	内　　容	参加者数
第 8 回	4 月 4 日	ミズバショウとリュウキンカの観察	4
第 9 回	4 月 12 日	ミズバショウとリュウキンカの観察	5
第 10 回	4 月 18 日	第 4 回「勉強会」	5
第 11 回	4 月 28 日	ミズバショウとリュウキンカの訪花昆虫の観察	4
第 12 回	5 月 8 日	対象植物の実生の観察	4
第 13 回	5 月 22 日	対象植物の種子形態と春蒔きの実験	5

	実施日	内　　容	参加者数
第 14 回	6 月 5 日	ミズバショウとリュウキンカの果実の観察	3
第 15 回	6 月 11 日	カキツバタの花の構造と訪花昆虫の観察	4
第 16 回	6 月 15 日	カキツバタの花の構造と訪花昆虫の観察	2
第 17 回	6 月 24 日	ミズバショウとサワオグルマの果実の観察	3
第 18 回	7 月 15 日	クサレダマとコオニユリの花の構造と訪花昆虫の観察	3
第 19 回	7 月 29 日	コオニユリとミソハギの訪花昆虫の観察	3
第 20 回	8 月 5 日	コオニユリとミソハギ、サワギキョウの花の構造と訪花昆虫の観察	3
第 21 回	8 月 19 日	ミズオトギリとアカバナの花の構造と訪花昆虫の観察	5
第 22 回	9 月 11 日	カキツバタの果実の観察	3
第 23 回	9 月 28 日	対象植物の果実と種子の観察	5
第 24 回	10 月 13 日	ミズオトギリの果実と種子の観察	2
第 25 回	11 月 16 日	まとめの会（第 1 回）	4
第 26 回	12 月 14 日	まとめの会（第 2 回）	4
第 27 回	1 月 18 日	まとめの会（第 3 回）	5
第 28 回	2 月 8 日	ミズバショウとリュウキンカの観察、水温測定	4
第 29 回	3 月 19 日	ミズバショウとリュウキンカの観察、水温測定	2

(3) 学習会・講座等の開催

①付属園スタンプラリー（担当：飯島・上良・小嶋・戸谷）

a. **開催日**：平成 21 年 4 月 25 日(土)～5 月 6 日(水)（12 日間：うち 2 日間は雨天中止、1 日は時間短縮）

平成 21 年 7 月 18 日(土)～8 月 16 日(日)の土・日曜・祝日、8 月 13 日～16 日は毎日開催（13 日間：うち 3 日は雨天中止、6 日は時間短縮）

平成 21 年 9 月 19 日(土)～23 日(水)（5 日間：うち 1 日は時間短縮）

平成 21 年 10 月 31 日(土)～11 月 3 日(火)（4 日間）

b. **場　所**：付属園

c. **参加者数**：4 月 25 日～5 月 6 日：406 人

7 月 18 日～8 月 16 日：260 人

9 月 19 日～23 日：145 人

10 月 31 日～11 月 3 日：43 人

d. **概　要**：付属園内数カ所に、職員手作りのオリジナルスタンプを設置し、動物を観察しながらスタンプを探して集めてもらう。また全てスタンプを集めた参加者には、参加記念とし、特大スタンプを押印した。

e. **所　見**：ゲーム感覚で参加できることで、子供はもちろん大人の方にも楽しんでもらうことができた。恒例のイベントとして定着してきたことで、毎回楽しみにしてくださるリピーターの方がいた。また手作りのスタンプには高評価をいただいた。

②春の動物写生大会（担当：清水隆寿）

a. **開催日**：4 月 25 日(土)～5 月 6 日(水)(12 日間)

b. **場　所**：付属園

c. **協　力**：荒井泰三（写生指導・敬称略）

d. **参加者数**：96 人（園児 10 点、小学生 85 点、中学生 1 点）

f. **概　要**：市内や周辺の幼稚園・保育園の園児、小・中学校の児童・生徒を対象にした付属園の動物や園内風景を画題とする写生大会。動物に親しみながら写生を楽しむ機会を提供し、毎年好評である。写生大会にあわせて、「アニマルウォッチング」「動物観察ツアー」「付属園スタンプラリー」を今年度も開催し、飼育動物の生態、身体のしくみや特徴などを職員が説明した。また 6 月 13 日(土)～28 日(日)まで講堂において動物写生画展を実施。6 月 28 日(日)には表彰式を行なった。

③昔懐かしい 16ｍｍ映画上映会（担当：清水隆寿）

a. **開催日**：8 月 21 日(金)・28 日(金)18：00～19：45

b. **場　所**：講堂及びホール

c. **参加者数**：8 月 21 日：2 人（大人 2 人）
　　8 月 28 日：10 人（大人 10 人）

d. **概　要**：8 月 21 日は「信州の動物たち」「冬季登攀」を放映した。「冬季登攀」は館長が文部科学省登山研修所に勤務していた際に、冬山登山研修用に制作した作品。8 月 28 日は「特別天然記念物ライチョウ」「日本の屋根長野県の自然」を放映した。

e. **所　見**：十分な広報が行き届かなかったため、参加者は少なかったが、良質な記録映画は今後とも定期的に実施したい。

④夜の飼育動物見学会（担当：清水博文・上良智）

a. **開催日**：8 月 22 日(土)・28 日(土)19：00～20：00

b. **場　所**：付属園

c. **参加者数**：8 月 22 日：26 人（大人 16 人、子供 10 人）
　　8 月 29 日：260 人（大人 10 人、子供 5 人）

d. **概　要**：普段入ることができない閉園後の付属園内での飼育動物観察会を行なった。

e. **所　見**：園内の段差など危険箇所にはあらかじめ蛍光塗料を塗る。安全確保のためのスタッフ配置などしたが、根本的な改善が望ましいと感じた。昼間とは違った動物たちの行動を見ることで身近な野生動物についての関心が深まったことと思われる。

⑤公開講座（担当：宮野）

a. **開催日**：11 月 14 日(土)

b. **場　所**：山岳博物館講堂

c. **共　催**：地方事務所環境課

d. **参加者数**：60 人

e. **概　要**：「北アルプスの高山は今…その保護に向けて」と題して長野県環境保全研究所の尾関雅章研究員が「餓鬼岳のライチョウ調査からみえること」と題して宮野が講演をした。この講座は自然保護レンジャー、自然観察インストラクター、豊かな環境づくり大北地域会議の会員の研修のひとつとして行った。

F. 所　見：地方事務所と共催で実施することにより告知の幅が広がり参加者が多くなった。また当日は企画展「日本アルプス・富士山・白山・研究室発　高山の自然は今…　－そしてその未来は－」を開催中であり、講演の内容が企画展と合致したことは、参加者にとって理解のしやすいものであったと思われる。

(4) 学校との連携、融合

期日	内容(館外の場合:実施場所)	対象校・学年など	人数	担当
4 月 27 日	生き物の学習、動物の描写	大町東小 2 年	45	清水隆寿・飯島・上良
5 月 1 日	社会見学	大町美麻小 3. 4 年	20	清水隆寿
5 月 12 日	社会見学	大町北小 3 年	74	宮野・清水博文・千葉
5 月 22 日	総合的学習	大町第一中	6	柳澤
5 月 23 日	親子でネイチャーゲーム	大町西小 1 年	50	宮野
6 月 2 日	職業体験学習	仁科台中支援学級 3 年	1	飯島・小嶋
6 月 6 日	職業体験学習	仁科台中支援学級 3 年	1	上良・小嶋
6 月 26 日	職業体験学習	仁科台中支援学級 3 年	1	上良・小嶋
7 月 6 日	総合学習(大町第一中)	大町第一中	6	柳澤
7 月 7 日	自然観察(青木湖ｷｬﾝﾌﾟ場)	大町南小 5 年	75	清水博文
7 月 10 日	野外実習の事前学習　昆虫と植物の共進化(大町高校)	大町高校 1 年	35	千葉
	職業体験学習	仁科台中支援学級 3 年	1	飯島・小嶋
7 月 14・15 日	職場体験学習	美麻中 2 年	2	宮野・清水隆寿・飯島、上良
7 月 15・16 日	職業体験学習	八坂中 2 年 3 年	2	上良・小嶋
7 月 17 日	職業体験学習	仁科台中支援学級 3 年	1	上良・小嶋
7 月 21・22 日	職場体験学習	小谷中 3 年	1	飯島・上良・小嶋
7月 31 日	野外実習　身近な自然、湿原の二次遷移(親海湿原)	大町高校 1 年	35	千葉
8 月 5 日	昆虫教室	児童館	40	清水博文
8 月 11 日	昆虫学習会とネイチャーゲーム(大町北小)	北小児童クラブ	40	宮野・清水博文
8 月 21 日	職業体験学習	仁科台中支援学級 3 年	1	上良・小嶋
8 月 27・28 日	職業体験学習	大町第一中 2 年	2	飯島・上良
8 月 28 日	職業体験学習	仁科台中特別学級 3 年	1	飯島・上良
9 月 3 日	総合的学習・地域の動植物	仁科台中	29	宮野・千葉
	職業体験学習	仁科台中支援学級 3 年	1	飯島・上良
9 月 3・4 日	職業体験学習	仁科台中 2 年	1	飯島・上良・小嶋
12 月 15 日	職場体験学習	大町北高校	3	清水隆寿・飯島・小嶋
2 月 26 日	総合的学習・百瀬慎太郎	大町東小 4 年	63	清水隆寿
実施回数:27 回		学校数:12 校	人数合計:537 人	

(5) 学芸員実習の受入（調整：宮野）

期　日	実 習 者	人員	担当
9 月 17 日～27 日（10 日）	帯広畜産大学畜産学部畜産学科 4 年 青山学院大学文学部史学科 4 年 信州大学理学部生物科学科 4 年	3 人	宮野・岩田・清水博文・清水隆寿、千葉

学芸員実習は博物館における実践的な側面の学習を主眼におき、山岳博物館では 10 日間の実習を原則としている。本年は３名を受け入れ、受付業務、資料整理、教育普及等の実習を行い、特にキノコ展の準備等の実習では多くの時間を実習にあてた。

(6) 各種観察会・学習会の共催・協力（調整：宮野）

期日	内容(館外実施場所)	主　催	参加者	担当
5 月 4 日	自然観察会(居谷里)	文化財センター	25 人	千葉
5 月 9 日	フクロウプログラム	山博友の会	14 人	清水博文
5 月 9 日～24 日	雪形のある風景写真・切り絵展(ギャラリーいーずら)	北アルプス雪形まつり実行委員会	約 300 名	清水隆寿
5 月 16 日	雪形講演会「金田国武と民話の世界」ほか	北アルプス雪形まつり実行委員会	26 人	清水隆寿
5 月 23 日	雪形切り絵教室ほか	北アルプス雪形まつり実行委員会	12 人	清水隆寿
5 月 9・16・23・24 日	雪形ウォッチング(市内～南・北安曇郡内)	北アルプス雪形まつり実行委員会	40 人	清水隆寿
5 月 25 日	第 8 回北アルプス雪形まつり(大町市文化会館)	北アルプス雪形まつり実行委員会	約 700 人	清水隆寿
6 月 13 日	長野県植物研究会研究発表(塩尻市林業総合センター)	長野県植物研究会	20 人	千葉
6 月 23 日	公民館講座(平公民館)	平公民館	19 人	千葉
7 月 19 日	自然観察学習	山博友の会	12 人	清水博文
8 月 15 日	昆虫標本作成指導	山岳博物館友の会	3 人	清水博文
9 月 26 日	彫彩と音楽　－素顔な出会い	大町市文化会館	90 人	宮野
10 月 3 日	仁科三湖クリーンラリー指導(中綱湖および青木湖)	大町市・豊かな環境づくり大北地域会議	16 人	清水博文
10 月 21 日	観光ガイド講座(鷹狩山)	大町市観光課	13 人	清水隆寿
10 月 24 日	昔語り講座(常盤・社・八坂・池田町)	常盤公民館	18 人	清水隆寿
11 月 2 日	ライチョウ会議東京大会(東京都)	ライチョウ会議東京大会実行委員会	91 人	宮野
3 月 21 日	「版画で雪形を描き隊！」制作	雪形まつり実行委員会	18 人	清水隆寿
			参加者数合計	約 1,442 人

(7) テレビ、ラジオへの出演（調整：宮野）

放送日	放送局名	番組名	形態	内容
5 月 7 日	テレビ信州	ゆうがた Get！	録画放送及び電話で生出演	ニホンカモシカ（飯島・上良）
2 月 27 日	ＳＢＣラジオ	ラジオ出たとこ勝負	電話で生出演	雪形・企画展(宮野) 付属園・イベント(小嶋)

(8) 収蔵資料などの貸出（調整：宮野）

期　日	用途	貸出先	貸出資料
4 月1日～3月 31 日	教育普及用	新潟県	ライチョウ剥製 2 点
	常設展示用	京都市動物園	カモシカ骨格標本 2 点
	常設展示用	富山市科学文化センター	ライチョウ剥製 1 点
7月 2 日～9 月 1 日	企画展示用	(財)井上靖文学館	「ナイロンザイル切断事件」写真パネル　1 点
7 月 12 日～9 月 6 日	企画展示用	富山県[立山博物館]	中村清太郎絵画　2 点
21 年 12 月 1 日～ 22 年 9 月 10 日	企画展示用	富山県[立山博物館]	竹内鳳次郎・ヒサ使用多角錐テント　一式

このほかにも多数の各種照会や報道機関・雑誌編集社などによる取材や資料撮影・閲覧などがあり、随時これらに協力した。

3. 執筆・出版

(1) 執筆

①大糸タイムス連載「山博ゼミ」（調整：宮野）

平成 15 年 3 月から地元新聞へのシリーズで隔週土曜日に連載。北アルプス山麓から山頂の自然あるいは登山の歴史などについて、隔週土曜日の地元新聞紙面にて紹介している。

展示や講座では紹介しきれない内容やタイムリーな事柄も地域の方々に向けて効果的に情報発信することができている。また、記名記事であることから博物館職員の“顔”が見えるということで市民から好評を得ている。

掲載月日	回	執筆者	題　　名
4 月 4 日	182	宮野	茶色とライチョウ
18 日	183	柳澤	山での突然死
5 月 2 日	184	清水隆寿	松本白樺工芸による登山人形
16 日	185	宮野	ヤマネ
30 日	185	宮野	アナグマのしぐさ
6 月 13 日	187	清水博文	ハルゼミとエゾハルゼミ
27 日	188	宮野	コムクドリの子育て
7 月 11 日	189	清水隆寿	明治時代の測量登山
25 日	190	清水博文	木の枝のうどん
8 月 8 日	191	柳澤	厳冬期の鹿島槍北壁主稜の登攀～昭和 11 年 1 月の帰路～
22 日	192	宮野	歯並び
29 日	193	宮野	ニホンカモシカの歯と葉
9 月 5 日	194	飯島	ニホンカモシカのエサ事情
19 日	195	千葉	帰化植物②オオハンゴンソウ
10 月 3 日	196	清水隆寿	黎明の剱岳登山
17 日	197	千葉	帰化植物③ハナトラノオ
31 日	198	宮野	ナナカマドとライチョウ
11 月 14 日	199	宮野	ライチョウの移動①
28 日	200	清水隆寿	針ノ木新道をめぐる人々の往来①

掲載月日	回	執筆者	題　　名
12 月 12 日	201	宮野	ライチョウの移動②
26 日	202	清水隆寿	針ノ木新道をめぐる人々の往来②
1 月 16 日	203	清水博文	クサカゲロウ
30 日	204	飯島	恋の季節
2 月 13 日	205	千葉	帰化植物④メマツヨイグサ
27日	206	小嶋	飼育員のお仕事
3 月 13 日	207	宮野	つかず、離れず
27 日	208	清水隆寿	欧州と日本の登山文化

(2) 出版

①新規出版物

a. 展示解説情報シート

常設展示に関して、展示解説パネルでは紹介しきれない情報を項目ごとにまとめた A4 判のカラー版。館内にて 1 部 30 円で販売しており、今年度は 738 部の利用があった。

b.『山と博物館』(担当：宮野・清水隆寿)

昭和 31 年 2 月に『やまと博物館』として創刊（昭和 32 年 1 月『山と博物館』に改題)。毎月、多分野の方々に原稿を寄せていただき、北アルプスを中心とした山岳の自然や歴史などの「山岳文化」と博物館の活動について広く情報発信を続けている。毎月 25 日発行、発行部数 1,000 部。体裁 A4 判、二ツ折 4 頁、単色刷り。定価 100 円。年間購読料 1,500 円（送料含む)。

平成 22 年 3 月 31 日現在、購読者数 502 名。内訳は市内 111 名（有料 6 名、無料 32 名、友の会 73 名)、市外 391 名（有料 41 名、無料 265 名、友の会 85 名）

巻号	月	頁	題　　名	著者名
544	4月	①	カッコウ ＊	中村照男
			企画展「羽は語る」に寄せて	〃
		②～④	学校教育における野鳥調査と保護活動の実践から	田畑孝宏
545	5月	①	担当植物の植え替え風景 ＊	千葉悟志
			湿地植物の生活史をさぐる	〃
		②～④	長野県大町市における食肉目のロードキル	黒瀬奈緒子
546	6月	①	本尊木造大姥尊坐像ほか ＊	清水隆寿
			大姥尊像に想う	吉澤通
		②～④	鹿島槍ヶ岳の積雪期登攀とアルピニズム	柳澤昭夫
547	7月	①	動物写真展『ふぞくえんがやってきた!!』	飯島志津・上良智・小嶋健太
		②～④	島々から上高地に至る登山道沿いの山小屋	梅干野成央
548	8月	①	神様のつかいに会った	丸山卓哉
		②～④	彫刻になった登山風景 －松本白樺工芸の山付登山人形について－	岸田惠理
549	9月	①	刻語り	高橋貞夫
		②～⑥	特別展　刻－凛然の軌跡　高橋貞夫展	高橋貞夫

巻号	月	頁	題　　名	著者名
54 10	1 0 月	①	山桜が豊かに育つ日本に	草間勉
		②～③	餓鬼岳のライチョウ	宮野典夫
		④	儀重桜の由来(一)	草間勉
54 11	1 1 月	①	三俣蓮華・山岳サミットを終えて	牛越徹
		②～③	カタツムリの化石を研究して	藤江明雄
		④	百楽桜について(二)	草間勉
54 12	1 2 月	①	企画展「高山の自然は今…」シンポジウム風景 ＊	山岳博物館
			山岳文化都市宣言	大町市
		②～⑥	シンポジウム「高山の自然は今…　ーそしてその未来は…？」 シンポジウム要旨(千葉悟志要約)	飯田肇・増沢武弘・泉山茂之・野上達也・尾関雅章・福士秀人
55 1	1 月	①	自然の造型の不思議 池田町「ままこ落し」	宮澤洋介
		②～③	スバールバルライチョウの飼育	髙橋幸裕
		④	桜研究での出会い(三)	草間勉
55 2	2 月	①	ネパールは今ーヒマラヤの山旅から	羽田栄治
		②～④	ヒマラヤ今昔　ー山と人ー	羽田栄治
55 3	3 月	①	ツクモグサに想う	宮澤陽美
		②～③	秦四郎が残した「日本アルプス登山記」 ーもうひとつの「後立山連峰逆走記」ー	清水隆寿
		④	山桜の豊かに育つ日本にするために(四)	草間勉

*印は表紙写真等を示し、この場合の著者名は撮影・提供者名等を記した。

c．年報（担当：宮野）

『平成 20 年度年報』（発行日：平成 21 年 11 月 25 日、発行部数：200 部、体裁：A4 判、38 頁、単色刷り）を編集・発行した。

.②販売中の出版物

現在、販売中の当館編による出版物は以下の通り。（平成 22 年 3 月 31 日現在）

書　名	発行先	発行年	備　考
山と博物館	大町山岳博物館	毎月 25 日	年間購読、館内販売
展示解説情報シート	大町山岳博物館	随時更新	館内にて販売中
北アルプスの自然と人(展示案内書)	大町山岳博物館	2005 年	〃
H21 企画展 アルピニズム誕生	大町山岳博物館	2009 年	〃
H21 企画展 高山の自然は今…	大町山岳博物館	2009 年	〃
H20 企画展 カブトムシとクワガタムシ	大町山岳博物館	2008 年	〃
ブルーガイド旅読本 上高地 安曇野 輝ける大地の自然と人	実業之日本社	2002 年	〃
新・北アルプス博物誌	信濃毎日新聞社	2001 年	〃
ライチョウ 生活と飼育への挑戦	信濃毎日新聞社	1992 年	〃
カモシカ 氷河期を生きた動物	信濃毎日新聞社	1991 年	書店にて販売中

4．インターネット・ウェブサイト

(1) 公式ウェブサイト（担当：千葉）

「今日の北アルプス」、「アニマルウォッチング」は一日も休むことなく更新した。『学芸員情報情報』は 27 の話題、『飼育員の奮闘記』は 27 の話題を提供し、喫茶売店こまくさの紹介や同所で行われた作品展、イベントの PR にも努めた。

URL：http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

(2) 安曇野アートラインウェブサイト（担当：宮野・岩田）

当館が加盟する安曇野アートライン推進協議会では、平成17年4月にウェブサイトを開設し、平成 18 年 9 月にサイトを充実させてリニューアルした。ここでは当館所蔵の山岳風景画など絵画を中心に紹介し、当館公式ウェブサイトとリンクさせて企画展やイベント情報などを随時発信している。“今週のおすすめ”では 8 月 24 日、9 月 21 日、11 月 30 日、2 月 22 日にトップページでイベント情報を提供した。

URL：http://azumino-artline.net /oomachi/

5．広報

(1) 大町博物館連絡会発行博物館めぐり案内図（担当：岩田）

大町博物館連絡会は市内加盟館 11 館で構成されている。「おおまち博物館めぐり案内図」はＢ４縦カラーで平成 21 年 4 月に発行したものを、近隣のホテル・旅館や夏休み前に市内小学校に配布した。

(2) ポスター（担当：千葉）

博物館への誘客を目的に大町市観光協会ガラス面を利用して、博物館三階からの眺望を紹介したポスター（縦 420mm×横 1800mm）3 枚を掲示し、開館時間・料金・企画展開催日時の周知にした。

６．友の会（担当：宮野）

(1) 組織

①役員

a．会　長　宮澤洋介

b．副会長　有川美保子、西沢泰夫

c．運営部　部長：有川美保子　部員：松坂美治子、山崎一彦、塩瀬淳也、栗林稔、宮田京子、西沢泰夫、川崎晃、丸山優子、関悟志、宮野順子

d．編集部　部長：丸山卓哉　　部員：宮澤洋介、木村節子、岑村隆、五十川渡

e．事務局　仙波美代子(こまくさ担当)、宮野典夫

f．アドバイザー　川崎裕子

g．監　査　倉科恵一、越山頼子

h．顧問　千葉彬司・長沢正彦

②構成（平成 22 年 3 月 31 日現在）

会員種別	会員数	会員種別	員数	会員種別	員数
ファミリー会員	307人(87ﾌｧﾐﾘｰ)	個人会員	63 人	学生会員	0 人
賛助会員	2 人	終身会員	3 人	名誉会員	3 人
合　計	378 人				

(2) 運営部

①行事

活動日	参加	主な内容
5 月 9～10 日	14 人	小鳥の声を聞く会ふくろうプログラム(山岳総合センター)
6 月 20 日	22 人	塩の道を歩くⅧ「平岩より来馬」
7 月 19～20 日	12 人	森のキャンプ(博物館) 夜の自然観察・あづみの国営公園・前越散策
9 月 5 日～6 日	9 人	夏の自然観察登山 「常念岳～大天井岳～燕山荘経由中房温泉」
10 月 23 日	23 人	秋の自然観察会 「前越平～鍬の峰登山」
11 月 8 日	28 人	史跡・美術館・博物館めぐり「上野公園での一日」(動物園と博物館)
1 月 17 日	22 人	伝統技術を学ぶ「折り紙の講習会」
2 月 7 日	17 人	冬の自然観察会とスノーシュートレッキング「雪の黒沢尾根」
3 月 14 日～4 月 4 日		友の会作品展
3 月 8 日	30 人	総会
3 月 8 日	60 人	講演会　丸山晴弘氏「山に学ぶ」

(3) 編集部

①「ゆきつばき通信」の発行

号数	発行日	主 な 内 容
136	4 月 25 日	行事案内…塩の道を歩く、小鳥の声を聞く会 報告…平成 21 年度友の会総会、講演会　他
137	6 月 30 日	行事案内…キャンプ 報告…小鳥の声を聞く会、塩の道を歩く
138	8 月 7 日	行事案内…夏の自然観察会、秋の自然観察会、動物園・博物館めぐり 報告…キャンプ、秋の博物館行事案内
臨時	10 月 16 日	山岳文化創出事業(人材募集)、喫茶「こまくさ」、ボランティア募集ほか
139	12 月 25 日	行事案内…折り紙、冬の自然観察会 報告…前越平～鍬ノ峰、上野動物園
140	2 月 25 日	行事案内…羽田栄治ギャラリートーク、友の会総会、友の会作品展と作品募集、特別展「羽田栄治　ネパール・ヒマラヤ今昔」－山と人－ 報告…折り紙の講習会、雪の黒沢尾根、喫茶こまくさ営業のお知らせ

②編集部

刊行物名	発行日	主 な 内 容
ゆきつばき 第 38 号	3 月 20 日	友の会ひろば…行事参加者の感想 三角点…会員の投稿、雑感

(4) 喫茶「こまくさ」の営業

営業期間は平成 21 年 4 月 12 日(日)～平成 21 年 11 月 3 日(火・祝日)

１階ホール隣での飲み物及び物品販売のサービス提供

(5) サークル活動

①烏帽子の会

山歩きのサークル。「連れてってもらう登山」ではなく「連れていく山行」、「次はどの山に行こう」という雰囲気で身近な山に登るサークル。平成 21 年 3 月末日、サークル会員は 26 名。

月　日	内　　容	参加	月　日	内　　容	参加
4 月 29 日(水)	霧訪山(塩尻市)	16 人	11 月 7 日(土)	高千穂平(大町市)	7人
8 月 1 日(土)	飯綱山(長野市)	6 人	1 月 30 日(土)	大峰高原(池田町)	13 人
10 月 3 日(土)	蓮華温泉(小谷村)	11 人	3 月 6 日(土)	乗鞍高原(松本市)	12 人

7. ライチョウ会議（担当：清水博文）

(1) ライチョウ会議

平成 18 年 6 月 27 日より会議設置要綱を改正し、会議の活動目的を明確にした。構成員にはライチョウに関わる国・県の行政担当課をはじめ、富山雷鳥研究会・静岡ライチョウ研究会などライチョウ保護関係団体との意見交換の場として機能されている。また、大町市（市立大町山岳博物館）は昨年度に引き続き事務局を委嘱されている。

(2) 第 10 回ライチョウ会議東京大会

ライチョウ会議新潟大会は、国内研究者・行政関係者・環境ＮＧＯ等が集まり、ライチョウに関する調査・研究の充実と現状の把握、具体的な保護活動の検討などライチョウについての知見を深め、野生動植物の保護・自然環境保全の啓発を目的として開催された。平成 21 年 11 月２～３日の 2 日間、恩賜上野動物園動物園ホール、東京大学弥生講堂一条ホールにおいて行政・研究者、一般市民等のべ 294 名が参加した。

「日本のライチョウは守れるか？－山で増やすか、飼って殖やすかー」を開催テーマとして、「ライチョウの地域個体群の現状」・「ライチョウの生態と生理学的特性」・「飼育の現状」・「ライチョウを取り巻く課題」・「公開シンポジウム」の５部構成で行われた。動物園の立場としてのライチョウの生息域外保全への取組みについてのほか、現在、ライチョウの生息域内では生息個体数の減少・天敵の高山帯への侵入・地球温暖化などの課題を抱えており、今後の生息域内の補強と各機関との連携が重要になるなどの意見が出された。

平成 22 年に開催予定の第 11 回ライチョウ会議石川大会は、石川県自然保護課が中心となり準備を進めている。

8. ボランティア活動（担当：宮野）

(1) 友の会との連携

月　日	内　　容	参加者
5 月 10 日(日)	小鳥の声を聞く会サポート(豚汁サービス･学習会引率)	4人

月　日	内　　容	参加者
7月 5 日(日)	中庭整理	8 人
9 月 26 日(土)	クラリネット・ハープの演奏会場設定	9 人
9 月 27 日(日)	キノコ学習会サポート(キノコ汁サービス・学習会引率)	4 人

(2) その他

月　日	内　容	個人・団体名	参加者
4 月 29 日(木)	博物館周辺清掃活動	天理教	約 80 人
4 月 29(水)・30 日(木)・5 月 2 日(土)	春の写生大会指導	荒井泰三	10 人
7 月 14 日(火)	博物館周辺草刈及び清掃活動	有明高原寮	27 人

(敬称省略)

Ⅳ　動植物飼育栽培繁殖事業

1．動物飼育繁殖（担当：清水博文、飯島、上良、小嶋、戸谷）

付属園の今後のあり方については、博物館全体の中の事業としての位置づけ、施設の老朽化、ライチョウの生息域外保全（低地飼育）事業の凍結等多くの課題を抱えている。今後の事業展開の方向性に関しては、市民意見を反映させるため協議会からいただいた意見など教育委員会に諮った結果、当面の間は現状維持という事業展開の指示があった。

(1) 飼育動物

①飼育動物の増減

a．繁殖個体

・なし

b．死亡個体（傷病鳥獣として救護した個体は除く）

・なし

c．転出

・ニホンカモシカ(オス)平成 20 年 7 月 9 日産まれ　愛称：クロベ

財団法人日本動物園水族館協会ニホンカモシカ国際血統登録調整者との調整により、平成 21 年 10 月 13 日に、埼玉県こども動物自然公園にブリーディングローンとして貸し出された。

d．今後の計画

ニホンカモシカについては、新たな野外個体の導入が困難なことから、若い個体の確保を目的として保護収容個体を用い繁殖計画を行いたい。今後も友好提携を結んでいるアルペン動物園との交換動物をふまえて、国内動物園間でブリーディングローン等も行いたい（現在、ブリーディングローンとして富山ファミリーパークと、埼玉県こども動物自然公園に各 1 個体貸出し中)。

②飼育動物

種　名	雄	雌	不明	計	種　名	雄	雌	不明	計
ホンドタヌキ		1		1	カルガモ			(1)	(1)
ホンドキツネ	(1)			(1)	トビ		(1)	(6)	(7)
ハクビシン	(2)	(1)		(3)	チョウゲンボウ	(1)	(1)		(2)
シベリアオオヤマネコ	1			1	ニホンキジ	1(1)	2(1)		3(2)
ニホンカモシカ	2(2)	3(1)		5(3)	キジバト			(1)	(1)
					オオコノハズク			(1)	(1)
					フクロウ			(1)	(1)
計	3(5)	4(2)		7(7)	計	1(2)	2(3)	(10)	3(15)

哺乳類 3（3）種・鳥類 1（7）種　　合計 4（10）種 10（22）個体

※（N）の数は保護動物

上記の他、身近な生き物を紹介するために、博物館ホール・付属園内においてイモリ・カナヘビ・ニホントカゲなど両生類・爬虫類のほか、スズムシなどの昆虫類を各生物の活動時期に合わせて水槽などを用いた展示を行った。

(2) 傷病鳥獣保護

長野県より平成21年度野生傷病鳥獣救護事業委託として、大町市および近隣市町村をにおける野性傷病鳥獣救護施設のひとつとして保護動物を受け入れている。

①収容個体数

哺乳類　2（3）種　2（7）個体

（ニホンカモシカ(3)・ハクビシン1(3)・ホンドキツネ(1)・アブラコウモリ(1)

鳥類　12(7)種　12(15)個体

（トビ1(7)・チョウゲンボウ1(2)・ニホンキジ(2)・キジバト1(1)・オオコノハズク(1)・シメ1・フクロウ(1)・ヤマガラ1・カルガモ(1)・マガモ1･オオタカ1･ムクドリ1・キセキレイ1・スズメ1･キビタキ1･カケス1)

合計14(22)個体

（そのうち死亡個体7・放鳥獣個体5・他施設への転出個体0・現在飼育中個体2(22)）

※（N）の数は前年度からの継続依頼個体である。

②所見

死亡個体のほとんどは、収容時には処置を行っても手遅れまたは、重症の個体であり保護収容当日か数日後に死亡している。このような傾向は過去の実績からも顕著であり、早期における獣医師の処置が不可欠であると考えられる。また、半年以上収容した個体は疾病が完治しても餌付いてしまうことも多く、人工保育で育てた個体と同様、野外に復帰させることが困難となり、長期収容個体となる傾向がみられる。

2．植物栽培繁殖（担当：千葉）

（1）栽培植物

①栽培植物の増減

増：ミズバショウ、リュウキンカ、サワオグルマ、サワギキョウ、アカバナ

減：なし

②栽培植物

コマクサ、フクジュソウ、サクラソウ、ササユリ、ビッチュウフウロ、アズミノヘラオモダカ、イヤリトリカブト、オオシラヒゲソウ、コオニユリ、カキツバタ、クサレダマ、ミズオトギリ、ミソハギ、トキソウ

③今後の計画

市観光課、企画財政課、大町市観光協会、ＪＲ信濃大町駅の協力のもとサクラソウの栽培展示を駅周辺で行った。展示は好評であった。次年度からは山岳博物館友の会ボランティアの協力を得て、植え替え、展示および除草などを行う予定である。

3．付属園整備（担当：清水博文）

（1）カモシカ園フェンス改修

平成20年度国庫補助事業として、老朽化したカモシカ園フェンス29.0mを撤去、新たに23.5mのフェンス・門扉2箇所・土留柵21.6mを設置した。竣工平成21年12月11日。

（2）飼育管理棟新設

老朽化した飼育管理棟を撤去し、新たな付属園管理棟（52.0 ㎡）を建設した。竣工平成 22年3月31日。

Ⅴ　その他

1．各種委員などの委嘱

高山植物等保護対策協議会中信地区・理事（柳澤）
北アルプス北部地区山岳遭難防止対策協会・参与（柳澤）
大町博物館連絡会・会長（柳澤）
大町市観光協会・理事（柳澤）
大北地方特定鳥獣保護管理対策協議会委員（柳澤）
長野県山岳総合センター運営懇談会委員（柳澤）
ライチョウ会議構成員（柳澤）
慎太郎祭実行委員（柳澤、千葉）
桜まつり実行委員（柳澤、宮野）
栂池自然園地域保全委員会委員・委員長（宮野）
長野県科学振興会大町支部・理事（宮野）
仁科三湖対策協議会（宮野）
北アルプス雪形まつり実行委員（清水隆寿）

2．アルペン動物園との友好提携協定の締結

昭和 60 年 2 月 18 日、オーストリア・インスブルック市のアルペン動物園と当館は、次のような目的による友好提携協定について締結をした。
「同じような自然環境に囲まれたインスブルックと大町両市の市長は、その締結を大いに歓迎し、また両市民は文化をはじめさまざまな分野において、緊密な交流をはかり、それを通じて相互信頼と友好を深め、将来にわたって、インスブルック市と大町市の繁栄と幸福のために貢献する。」（同協定書より抜粋）

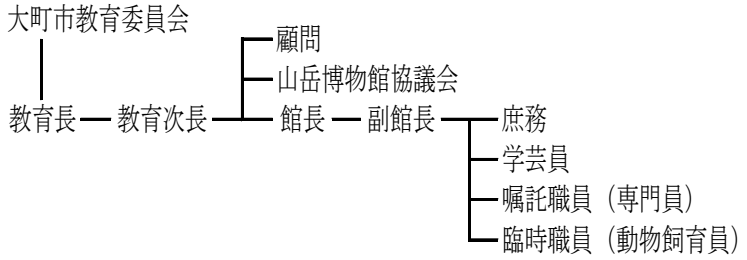
3．信州大学山岳科学総合研究所との研究協力協定の締結

平成 17 年 7 月 5 日、信州大学山岳総合研究所（藤沢謙一郎所長）と当館は、次のような目的による研究協力協定について締結をした。
「山岳および大町市とその周辺地方の民俗、歴史などの資料を収集、保管、展示し一般の観覧に供し、本邦における山岳文化などの普及並びに調査研究を行う市立大町山岳博物館と、信州の自然と社会をフィールドとして、山岳及びそれに連なる里山における自然と人間の相互関係にかかわる諸問題の解決を目指した研究を行い、新しい学問領域「山岳科学」を創造しようとする信州大学山岳科学総合研究所は、相互の連携の意義を深く認識し、自然と人間の共生の諸課題探求に力をあわせて貢献するため、ここに研究協力協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

Ⅵ　運営

1．組織および職員構成

（1）組織



（2）顧問

千葉彬司

（3）協議会委員

学校教育関係者：小澤洋治

社会教育関係者：横川仁、松原繁、鈴木啓助

学識経験者：藤沢秀、宮澤洋介、今滝一登美、大坪三好、湯澤将憲、佐藤悟、下崎雄一郎、成沢勝人

（4）職員

①配置

館　長　柳澤昭夫（嘱託）

副館長　宮野典夫（学芸員兼務）

庶　務　岩田直美

学芸員　清水隆寿（人文科学系）　清水博文、千葉悟志（自然科学系）

臨時職員　北村洋子（庶務）　飯島志津、上良智、小嶋健太、戸谷諭美（動物飼育）

②人事異動

死　去　館長・柳澤昭夫（平成 22 年 3 月 23 日）

新　規　動物飼育員（臨時職員）　小嶋健太（平成 21 年 4 月 1 日～）

動物飼育員（臨時職員）　戸谷諭美（平成 21 年 10 月 1 日～）

庶務（臨時職員）　北村洋子（平成 21 年 10 月 17 日～）

退　職　動物飼育員（臨時職員）　上良智　（平成 21 年 9 月 29 日）

庶務（臨時職員）　北村洋子（平成 22 年 3 月 30 日）

2．協議会

（1）第 1 回協議会

①**日時**：平成 21 年 7 月 14 日（火）15：30～17：15

②**場所**：山岳博物館　講堂

出席者：藤沢秀、宮澤洋介、横川仁、松原繁、鈴木啓助、今滝一登美、下嵜雄一郎、小澤洋治、大坪三好、成沢勝人

③**内容**：・正副会長の選出

会長に藤沢秀、副会長に横川仁。

・報告

平成 20 年度の事業経過報告。

平成 21 年度追加事業について。

・協議

付属園について

登山史部門　展示改修について。

大町市観光審議会委員の選出について、横川副会長に決定。

大町市教育委員会事務の点検・評価の外部評価員の選出について、松原委員に決定。

(2) 第 2 回協議会

①**日時**：平成 21 年 11 月 30 日(月)　13：30～15：30

②**場所**：山岳博物館　講堂

出席者：藤沢秀、宮澤洋介、松原繁、鈴木啓助、今滝一登美、佐藤悟、下嵜雄一郎

③**内容**：・報告

平成 21 年度の事業経過報告

・協議

登山史部門　展示改修について

付属園について

3. 入館者状況

(1) 過去の入館者状況

（単位：人）

年度	有料入館者							無料入館者			
	個人			団体			計	一般減免	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳以上	小中生	
昭和26	291		100	21		77	489				
27	2,425		1,022	186		1,514	5,147				
28	8,922		2,229	725		1,216	13,092				
29	7,779		1,831	625		1,189	11,424				
30	6,831		1,664	1,445		945	10,885				
31	2,148		888	1,036		858	4,930				
32	1,934		658	826		1,880	5,298				
33	2,979		1,032	1,469		2,417	7,897				
34	2,972		626	1,727		1,788	7,113				
35	3,635		878	1,943		2,143	8,599				
36	4,181		1,329	2,132		2,521	10,163				
37	5,313		1,633	4,549		2,748	14,243				
38	6,394		1,854	4,727		2,918	15,893				
39	10,464		1,658	12,600		1,520	26,242				
40	14,214		1,696	8,050		1,600	25,560				
41	10,399		1,711	13,070		1,500	26,680				
42	12,891		1,649	8,301		3,059	25,900				
43	18,458		2,071	17,769		3,240	41,538				
44	16,273		2,100	10,845		3,749	32,967				
45	13,405		1,941	11,623		3,960	30,929				
46	18,414		3,001	14,718		3,193	39,326				
47	17,500		3,025	13,268		6,877	40,670				
48	25,809		4,178	22,612		5,774	58,373				
49	28,702		4,277	23,432		5,843	62,254				
50	32,345		4,896	23,616		6,835	67,692				
51	32,111		5,142	25,150		8,200	70,603				
52	26,155		4,311	18,907		5,327	54,700				
53	26,346		4,158	24,903		8,722	64,129				
54	27,769		4,485	25,089		6,600	63,943				
55	25,743		4,414	19,909		6,972	57,038				
56	31,697		7,558	16,182		9,695	65,132				
57	31,894	809	6,400	10,391	5,827	6,929	62,250	7,965			7,965
58	33,590	988	6,632	15,885	7,992	12,303	77,390	9,026			9,026
59	30,335	816	5,905	12,969	9,172	15,070	74,267	8,117			8,117
60	36,686	1,142	8,025	22,782	8,559	15,902	93,096	6,770			6,770
61	34,797	1,086	6,109	16,001	8,107	16,069	82,169	4,509			4,509
62	33,132	918	5,581	18,751	7,065	17,186	82,633	3,605			3,605
63	36,116	841	5,932	14,947	6,085	14,735	78,656	6,269			6,269
平成元	41,018	1,199	6,450	13,191	4,650	10,527	77,035	3,709			3,709
2	43,444	1,108	6,752	16,486	3,045	7,119	77,954	4,844			4,844
3	47,004	1,276	7,313	13,817	4,212	8,278	81,900	4,577			4,577

年度	有料入館者							無料入館者			
	個人			団体			計	一般減免	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳以上	小中	
4	42,197	725	5,719	13,068	1,687	7,015	70,411	3,413			3,413
5	45,182	809	5,807	12,249	2,807	5,325	72,179	3,587			3,587
6	38,354	933	4,809	10,561	1,932	4,974	61,563	3,376			3,376
7	37,356	981	4,650	9,493	1,840	4,164	58,484	5,376			5,376
8	36,002	869	4,189	6,601	1,905	2,244	51,810	2,174			2,174
9	31,119	626	3,417	7,626	1,245	2,100	46,143	1,429			1,429
10	28,219	637	3,105	6,023	764	2,006	40,754	1,686			1,686
11	24,220	482	2,200	4,766	561	1,183	33,412	1,206			1,206
12	23,082	501	2,273	5,344	648	1,024	32,872	1,187			1,187
13	24,064	439	2,163	3,389	671	1,577	32,303	1,497	387	826	2,710
14	20,527	472	1,744	2,518	675	808	26,744	1,013	191	451	1,655
15	19,693	535	2,152	2,184	785	1,082	26,431	990	285	616	1,891
16	14,664	376	1,073	2,875	602	644	20,234	604	51	662	1,317
17	12,065	213	630	3,138	692	928	17,666	1011	97	491	1,599
18	14,056	135	996	3,120	545	1,836	20,688	1,825	162	688	2,675
19	10,991	120	742	2,401	407	1,037	15,698	1,087	94	693	1,874
20	11,532	130	803	2,766	381	578	16,190	1,518	188	619	2,325
21	11,269	100	704	3,055	61	1,098	16,287	1,164	143	348	1,655

(2) 平成21年度の入館者状況　　（単位：人）

月	有料入館者							無料入館者			
	個人			団体			計	一般減免	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳以上	小中生	
4	812	2	31	101	0	227	1,173	97	8	11	1,289
5	1,479	17	102	367	0	125	2,090	152	5	138	2,385
6	634	0	14	250	0	6	940	37	2	0	943
7	1,563	6	65	418	0	295	2,347	174	9	29	2,559
8	2,079	47	309	446	14	289	3,187	151	31	65	3,434
9	1,512	15	78	457	46	20	2,128	187	49	32	2,396
10	1,339	3	32	673	0	128	2,175	172	14	2	2,363
11	640	2	17	112	0	0	771	72	10	6	859
12	173	0	6	76	0	1	256	9	0	0	265
1	207	0	9	26	1	5	248	31	2	1	282
2	317	0	8	33	0	0	358	16	1	63	438
3	514	8	33	93	0	2	650	66	12	1	729
合計	11,269	100	704	3,055	61	1,098	16,287	1,164	143	348	17,942
前年度計	11,532	130	803	2,766	381	578	16,190	1,518	188	619	18,515
前年度比	97.7%	76.9%	87.7%	110.4%	16.0%	190%	100.6%	76.7%	76%	56.2%	96.9%

(3) 平成21年度の開館日数

316日

4. 平成 21 年度予算・決算

(1) 歳入　　（単位：円）

項　目	観覧料	望遠鏡使用料	県委託金	寄付金	雑　入	計
当初予算	7,528,000	100,000	200,000	1,000,000	846,000	9,674,000
決算額	5,927,600	74,400	191,000	1,000,000	767,787	7,960,787
	△1,600,400	△25,600	△9,000	0	△78,213	△1,713,231

(2) 歳出

項目	一般職員人件費	博物館管理運営一般経費	教育普及事業	調査研究事業	資料収集保管事業
当初予算	33,268,000	16,233,000	4,034,000	535,000	616,000
決算額	33,694,150	12,717,251	3,806,616	351,059	568,772
	426,150	△3,515,749	△227,384	△183,941	△47,228

項目	動植物飼育栽培事業	山岳博物館展示改修事業	付属園整備事業	繰越明許費付属園整備事業	計
当初予算	8,186,000	1,061,000	0	0	63,933,000
決算額	7,854,815	1,751,209	8,851,500	1,566,500	71,161,872
	△331,185	690,209	8,851,500	1,566,500	7,228,872

Ⅶ　関係条例規則

1．市立大町山岳博物館条例

昭和 57 年 3 月 29 日
条例第 12 号

改正　昭和 61 年 3 月 24 日条例第 8 号　　平成元年 3 月 24 日条例第 7 号
平成 4 年 3 月 31 日条例第 8 号　　平成 5 年 12 月 24 日条例第 32 号
平成 12 年 3 月 29 日条例第 13 号　平成 13 年 3 月 27 日条例第 13 号

市立大町山岳博物館条例（昭和 29 年条例第 18 号）の全部を改正する。

（目的）

第 1 条　この条例は、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号。以下「法」という）第 18 条及び地　方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の 2 第 1 項の規定に基づき、市立大町山岳博物　館（以下「博物館」という）の設置及び管理運営に関し、必要な事項を定めることを目的と　する。

（設置）

第 2 条　山岳に関する資料並びにこの地方における民俗、歴史その他の資料を収集して、保管　又は展示し、一般の観覧に供し、本邦における山岳文化等の普及並びにこれらの資料の調査　研究を行うため博物館を設置する。

（名称及び位置）

第 3 条　博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

市立大町山岳博物館　大町市大町 8056 番地 1

（職員）

第 4 条　法第 4 条の規定による館長、学芸員のほか必要な職員を置く。

2　必要に応じ顧問及び嘱託員を置くことができる。

（観覧料）

第 5 条　博物館を観覧しようとする者は、別表第 1 に定める観覧料を納付しなければならない。　ただし、次に掲げる者は、この限りでない。

(1) 6 歳未満の者
(2) 市内の小学校及び中学校に在学する児童又は生徒
(3) 市内に住所を有する満 65 歳以上の者

（使用料）

第 6 条　博物館の設備使用料は、別表第 2 に定めるとおりとする。

（観覧料の減免）

第 7 条　大町市教育委員会（以下「教育委員会」という）は、特別な理由があると認めるとき　は、観覧料を減免することができる。

（資料の特別利用）

第 8 条　博物館資料を学術研究等のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受け　なければならない。

（賠償責任）

第 9 条　故意又は過失により、博物館の資料、施設等を破損し、又は滅失したときは、教育委　員会の命ずるところにより、これを原状に復し、又は損害を賠償しなければならない。

（博物館協議会）

第 10 条　法第 22 条の規定により、市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という）を設　置する。

2　協議会の委員（以下「委員」という）の数は、15 人以内とし、教育委員会が委嘱する。

3　委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委任）

第 11 条　この条例に定めるもののほか必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附　則

1　この条例は、昭和57年6月5日から施行する。
2　この条例施行の際、現に市立大町山岳博物館条例（昭和29年条例第18号）第5条の規定に　より委員として委嘱された者は、この条例第10条の規定により委嘱されたものとみなし、任期は、同条第3項の規定にかかわらず、昭和58年3月31日までとする。

附　則（昭和61年3月24日条例第8号）
この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附　則（平成元年3月24日条例第7号）
この条例は、平成元年4月1日から施行する。

附　則（平成4年3月31日条例第8号）
この条例は、平成4年4月1日から施行する。

附　則（平成5年12月24日条例第32号）
この条例は、平成6年4月1日から施行する。

附　則（平成12年3月29月条例第13号）
この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附　則（平成13年3月27日条例第13号）
この条例は、平成13年4月1日から施行する。

附　則′（平成17年12月6日条例第30号）
この条例は、平成18年1月1日から施行する。

別表第1（第5条関係）

種別	区分	単位	観覧料
一般	大人	1人	400円
	高校生	〃	300
	小人	〃	200
団体 （30人以上の場合をいう）	大人	〃	350
	高校生	〃	250
	小人	〃	150

備考　特別の資料を展示する場合は、1,000 円の範囲内においてその都度教育委員会が定める額とする。

別表第2（第6条関係）

望遠鏡使用料	1回	100円

2. 市立大町山岳博物館規則

昭和 57 年 3 月 30 日
教育委員会規則第 3 号

改正　平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号　平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号
平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号

（趣旨）
第 1 条　地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 33 条第 1 項及び市立大町山岳博物館条例（昭和 57 年条例第 12 号。以下「条例」という）第 11 条の規定に基づき、市立大町山岳博物館（以下「博物館」という）の管理運営並びに市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。
（職務）
第 2 条　館長は、上司の命を受け、館を統括し、所属職員を指揮監督する。
2　学芸員は、館長の命を受け、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 4 条第 4 項に規定する職務を遂行する。
3　その他の職員は、館長の命を受け、職務を遂行する。
4　館長を補佐するため、副館長を置くことができる。副館長は、係長相当職をもって充てる。
5　嘱託員は、学術に関する職務に従事する。
（休館日）
第 3 条　博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、臨時に開館又は休館することができる。
(1)　毎週月曜日
(2)　国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日の翌日（この日が月曜日に当たるときは、その翌日）
(3)　12 月 29 日から翌年 1 月 3 日までの日（前号に掲げる日を除く）
（開館時間）
第 4 条　博物館の開館時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めたときは、これを変更することができる。
（観覧券の交付）
第 5 条　条例第 5 条の規定による観覧料の納付があったときは、観覧券（様式第 1 号）に領収印を押印し、交付するものとする。
（観覧料の減免）
第 6 条　条例第 7 条の規定による観覧料の減免を受けようとする者は、博物館観覧料減免申請書（様式第 2 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。
（博物館資料の利用等）
第 7 条　条例第 8 条の規定により博物館の資料を利用しようとする者は、市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書（様式第 3 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。
2　前項の規定による資料の利用期間は、30 日以内とする。ただし、教育委員会が必要と認めた場合は、延長することができる。
（入館制限等）
第 8 条　教育委員会は、次の一に該当するときは、入館を拒否し、退館を命じ、又は許可を取り消し、その他必要な措置を講ずることができる。
(1)　公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
(2)　管理上支障があると認められるとき。
(3)　その他教育委員会が必要と認めるとき。
（資料の寄贈及び寄託）
第 9 条　博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。資料を寄贈及び寄託しようとする者は、博物館資料寄贈・寄託書（様式第 4 号）を教育委員会に提出するものとする。
2　寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。
3　博物館は、寄託を受けた博物館資料が災害その他不可抗力によって滅失又は損傷した場合は、損害

賠償の責を負わない。
4　寄贈又は寄託を受けた博物館資料は、一般の資料と同一の取扱いをするものとする。
（資料等の滅失・損傷）
第10条　館長は、博物館の資料、施設等が滅失又は損傷したときは、速やかに教育委員会に報告し、その指示を受けなければならない。
（協議会の組織）
第11条　協議会に、委員の互選による会長及び副会長各１名を置く。
2　会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
3　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
（協議会の会議）
第12条　協議会の会議は、館長の諮問により会長が招集する。
2　協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
3　会議の議決は、出席委員の過半数の賛成がなければならない。

附　則
1　この規則は、昭和57年6月5日から施行する。
2　市立大町山岳博物館規程（昭和29年教育委員会規則第9号）及び市立大町山岳博物館協議会規程（昭和29年山岳博物館規程第1号）は、廃止する。
附　則（平成元年3月31日教委規則第3号）
この規則は、平成元年4月1日から施行する。
附　則（平成9年12月26日教委規則第3号）
この規則は、平成10年1月1日から施行する。
附　則（平成12年3月30日教委規則第9号）
この規則は、平成12年4月1日から施行する。
様式（省略）

3．大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱

平成 17 年 7 月 7 日
教育委員会告示第 8 号

（趣旨）
第 1　大町市におけるライチョウ保護事業の計画を策定するため、大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。
（所掌事務）
第 2　委員会は、ライチョウの保護事業に関する計画の策定及びその他計画策定上必要な事項を検討するものとする。
（組織）
第 3　委員会は、委員 10 人以内で組織し、学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。
（任期）
第 4　委員の任期は、ライチョウ保護事業計画の策定業務が終了するまでとする。
第 5　委員会に委員長及び副委員長各 1 人を置き、委員が互選する。
２　委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
３　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。
（オブザーバー）
第 6　委員会にオブザーバーを置くことができる。
２　オブザーバーは、ライチョウの保護事業に関し、必要な意見を述べることができる。
（会議）
第 7　委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。
２　委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。
（事務局）
第 8　委員会の事務局は、市立大町山岳博物館に置く。
（補則）
第 9　この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附　則

この告示は、告示の日から施行する。

Ⅷ　施設

1．敷地面積

39,875.92 ㎡

2．本館建物

(1) 構　造：鉄筋コンクリート　地上3階 地下1階
(2) 竣　工：昭和57年5月31日竣工
(3) 延べ床面積：2,207.0 ㎡
(4) 床面積表　（単位：㎡）

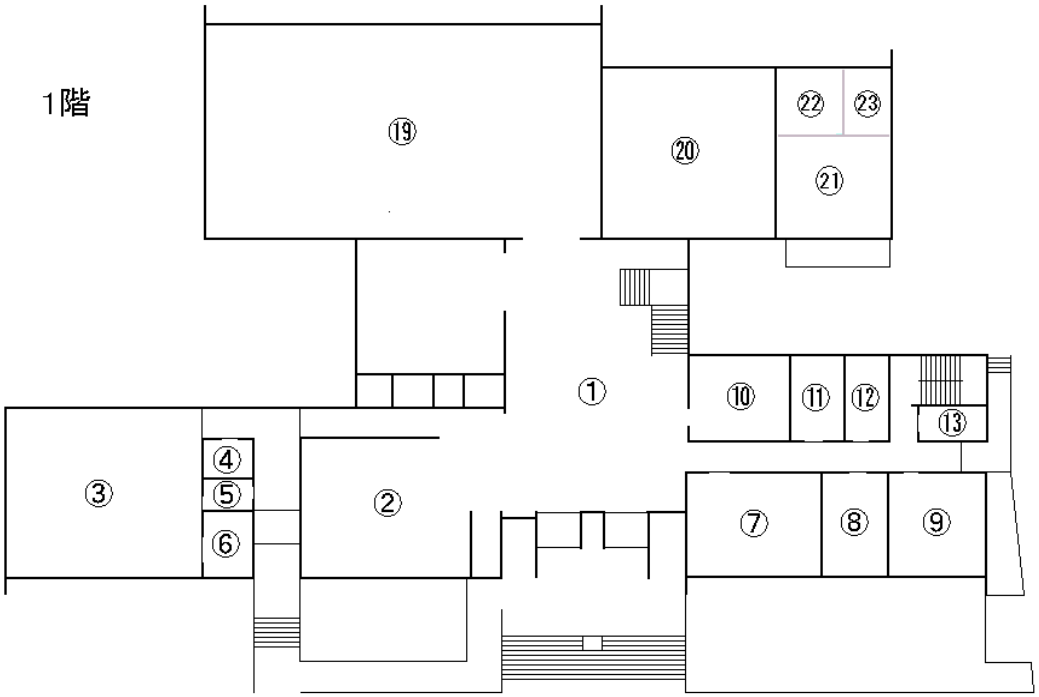
名称および面積	名称および面積	名称および面積	名称および面積
1階　1244.9	⑬倉 庫　8.8	2階　686.1	3階　116.8
①ホール　205.5	⑭E. V　5.1	㉔ﾚｸﾁｬｰｽﾍﾟｰｽ　113.6	㉜展望室　94.6
②喫茶　74.2	⑮給湯室　3.0	㉕研究室　69.6	その他(階段)　86.9
③講 堂　110.2	⑯倉 庫　3.5	㉖図書室　34.8	
④便 所　8.1	⑰EV機械室　6.0	㉗倉 庫　16.0	地階　159.2
⑤映写室　5.4	⑱特別展示室　70.4	㉘収蔵庫　42.1	㉝機械室　118.8
⑥準備室　9.1	⑲第1展示室　290.0	㉙便 所　18.2	㉞車 庫　23.0
⑦事務室　51.0	⑳収蔵庫　104.0	㉚第2展示室　290.0	その他(階段)　17.4
⑧館長室　18.6	㉑荷解・作業室　41.3	㉛ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室　14.9	
⑨宿直室　32.5	㉒ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室　16.4	その他(廊下、階段)	
⑩便 所　29.0	㉓燻蒸室　12.3	86.9	
⑪書 庫　16.7	その他(廊下、階段)		
⑫更衣室　14.6	109.2		

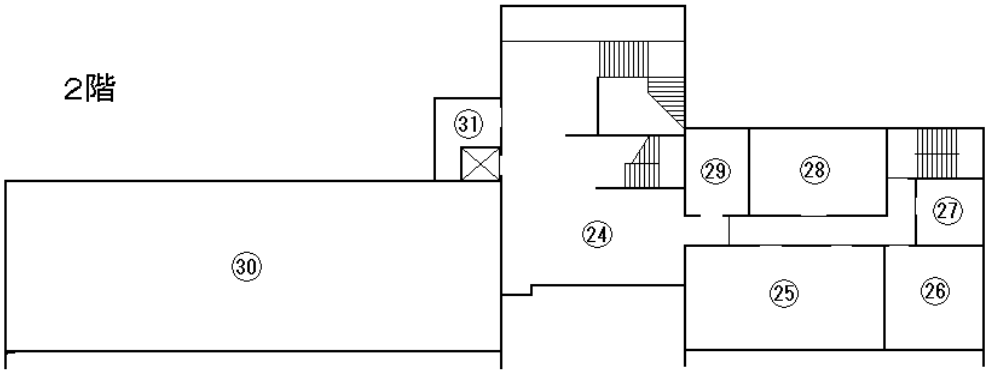
3．付属施設

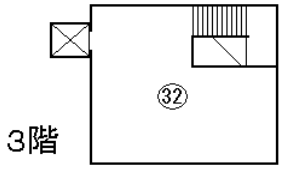
(1) 付属園（本館隣）の建物（建設年度順）

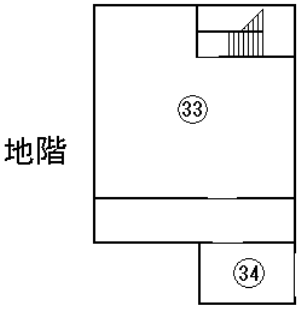
施設名および面積(築年度)		施設名および面積(築年度)		施設名および面積(築年度)	
A-1	33.44 (S42,43)	B-4	39.63 (S54,55)	B-7	46.5(S61)
A-3	15.24 (S48)	B-1	28.20 (S38)S55移設	B-8	26.92(H1)
A-5	33.44 (S49)	A-4	16.20 (S48)S55移設	B-9	34.83(H3,4)
A-6	42.85 (S49)	B-6	18.99(S61)	B-10	5.2 (H3)
A-7	20.26 (S51)	B-7	46.5(S61)	B-11	67.65(H4)
A-8	11.55 (S53)	B-8	26.92(H1)	B-12	44.88(H7)
B-3	22.62 (S53)	B-6	18.99(S61)	A-10	52.00(H21)

4. 本館平面図

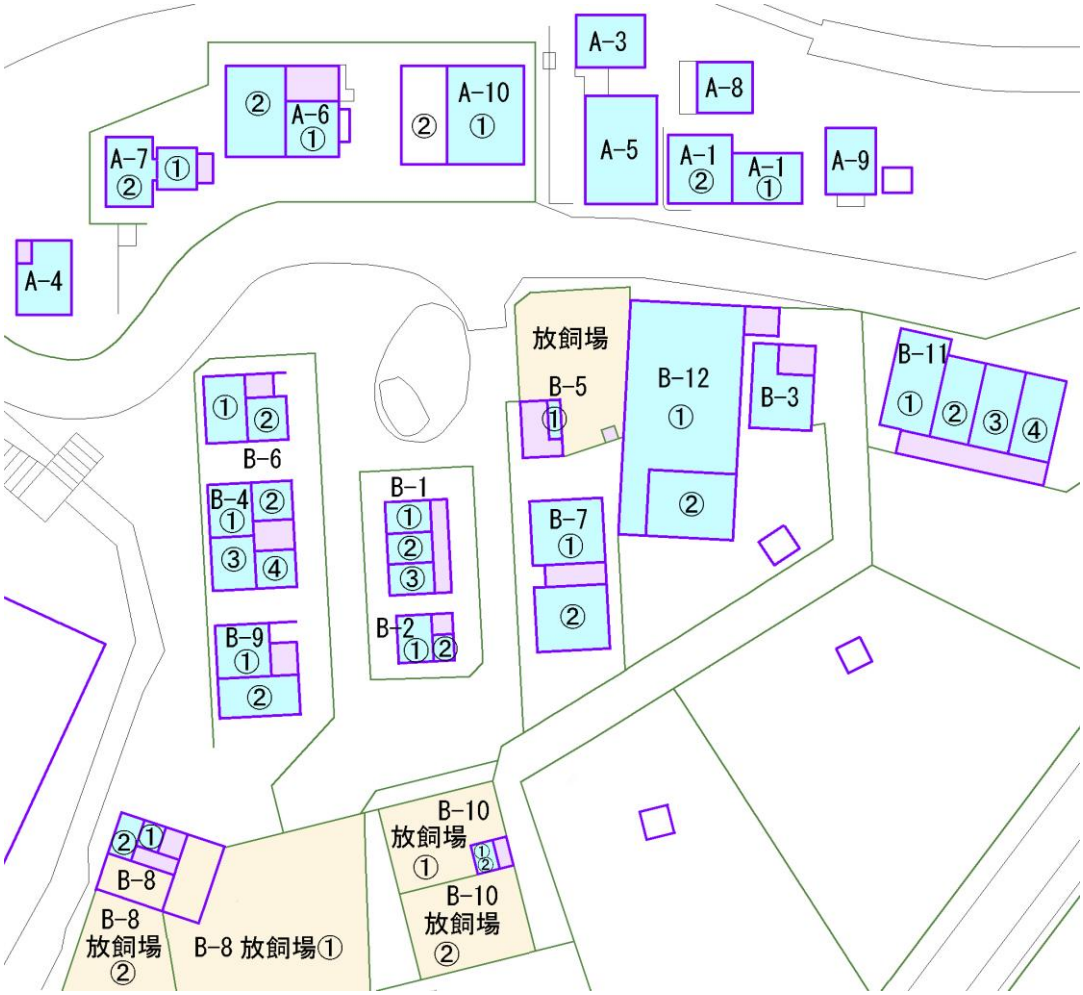








5. 付属園の建物図



Ⅸ　利用案内（平成 21 年 3 月 31 日現在）

1. 開館時間　午前 9 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）
2. 休館日　毎週月曜日、国民の祝日・振替休日の翌日、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）
   ※月曜日が祝日・休日の場合は開館し、翌日休館　7 月・8 月は無休
3. 交通　公共機関　JR 信濃大町駅から　タクシーで 5 分、歩いて 25 分
   車　長野自動車道豊科 IC から 40 分
   （北アルプスパノラマロード経由 白馬方面へ 28 km）
   ※博物館前に無料駐車場（普通車 30 台・大型バス 5 台収容）
4. 観覧料

区　分	大　人	高校生	小・中学生
個　人	400 円	300 円	200 円
団　体（30 名様以上）	350 円	250 円	150 円

5. ユニバーサルデザイン
   入口スロープ、車イス用トイレ、車イス対応エレベーター、貸出用車イス・ベビーカー、ベビーベッド、点訳版パンフレット、アシスタントドッグ同伴可能
6. 所在地および連絡先
   〒398-0002　長野県大町市大町 8056－1
   （標高：766m、経緯：北緯 36 度 30 分、東経 137 度 52 分）
   TEL：0261-22-0211／FAX：0261-21-2133
   E-mail：sanpaku@city.omachi.nagano.jp
   URL：http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

市立大町山岳博物館　平成 20 年度 年報
平成 23 年 1 月〇〇日発行
編集･発行　市立大町山岳博物館
〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1
TEL:0261-22-0211/FAX:0261-21-2133
印刷･製本　〇〇〇〇
〒398-0002 長野県大町市大町〇〇
TEL:0261-22-〇〇/FAX:0261-22-〇〇

この印刷物は再生紙を使用し、石油溶剤の代わりに大豆油を使用した大豆インキで印刷しています。